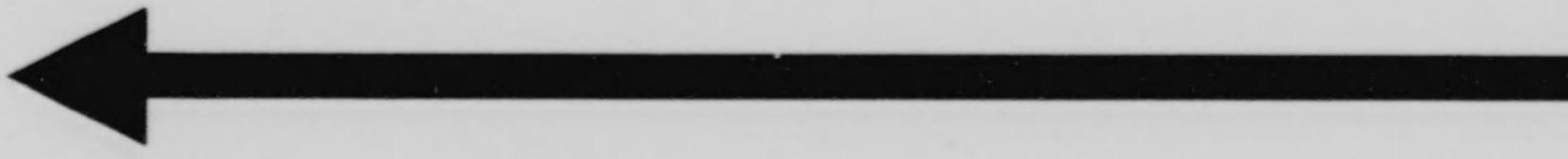


373

961

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9 10 1 2 3 4

始





徵古館陳列品略解



徵古館陳列品略解

大正

8. 10. 22

內交



373-964

凡例

一、本編ハ徵古館陳列品中特殊ノモノ或ハ同一類中代表的ノモノ一二點ヅ、ヲ選ビコレニ略解ヲ附シタリ。

一、本編ニ掲ゲタル列品中一時ニ陳列スルコトヲ得ザルモノハ便宜時々陳列換ヲナスコトアルベシ。

一、本編ニ記セル列品ノ番號ハ列品附札ノ番號ト同一ニシテ對照ノ爲ニ附シタルモノナリ陳列ノ順次ニアラス。



陳列排置

- 第一室 風俗人形、武器
- 第二室 武器、馬具
- 第三室 風俗人形、服飾
- 第四室 服飾、家什、調度、文房具、樂器、  
遊戲具、度量衡、貨幣
- 第五室 神宮遷宮關係資料、神宮撤下御物
- 第六室 神宮祭器祭具、神宮撤下御物
- 第七室 神宮寶物、神宮諸祭畫圖
- 第八室 古文書、畫圖、典籍、金石文
- 第九室 輿車船舶、石器時代遺物、上古時代  
遺物

徵古館陳列品略解

第一室

風俗人形

一八三 上古風俗

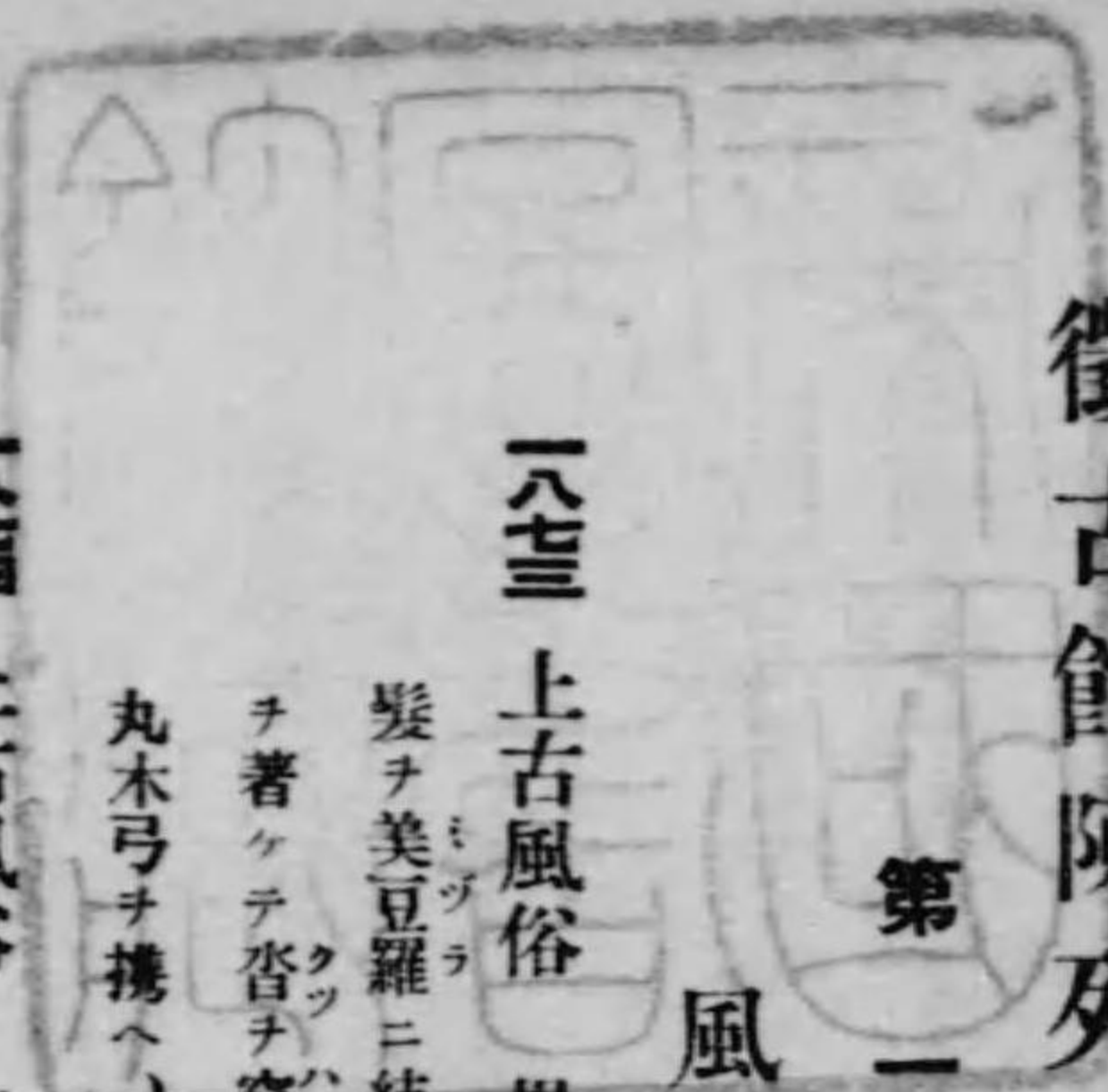
男子 佛教渡來以前ノ風

髪ヲ美豆羅ニ結ビ櫛ヲ插シ、耳輪及頸玉ヲ懸ケ、左衽ノ衣ニ禪ヲ穿キ、鈴釧ヲ著ケ、足結ヲナシ、襪ヲ著ケテ沓ヲ穿ク。腰ニハ縹帶ヲ以テ頭椎太刀ヲ佩キ、葛鞆ニ野矢ヲ盛リタルヲ負ヒ、左腕ニ瓶ヲ著ケ、丸木弓ヲ携ヘ、所謂弓彈ノ調ヲ獲ントテ朝獵ニ出立ツ體ヲ示ス。

一八四 上古風俗

女子 同前

髪ヲ頭頂ニ結束シテ後世ノ島田髷ノ如クシ、額櫛ヲ插ス。耳輪頸玉男子ニ同シ。手ニハ手玉ヲ懸ケ、衣禪ヲ著シ、裳ヲ纏ヒ、領巾ヲ懸ケ、席上ニ座シテ前ニ麻笥ヲ置キ、棹ヲ持チテ續麻ヲ卷ク。所謂手末ノ調





ナモノスル體

一八五 奈良朝時代風俗 男子

五位文官 朝服  
隨唐ノ風ニ倣ヒタル時

冠クリノウスモ、ノカウムリ、ウスアケノウヘノキヌ 緋シロノハカマ 袍ハシビ 袴ハシビ 半臂ハシビ 著ケ、銀シロカネツクノカハノイビ 裝シロキ、シタウツ 革シロキ、シタウツ 帶シロキ、シタウツ ナ以テ束子、白シロキ、シタウツ 襪シロキ、シタウツ ナ  
皂クリカハノクツ 頭ウスアケノフクロ 巾オ 淺ゲシヤク 緋ウスアケノフクロ 袋ゲシヤク 牙笏ゲシヤク ナ把リテ立テ、文官朝參ノ體ヲ示ス。

一八六 藤原時代風俗 男子

五位文官 束帶  
前代ノ風俗漸ク化シテ日本式トナリタル時

垂スサエリノカンムリ 冠ヒトヘオホクチノハカマ 單ウヘノハカマ 大シタカサト 口アケノキヌ 袴アケノキヌ 表アケノキヌ 袴アケノキヌ 下アケノキヌ 裳アケノキヌ 緋アケノキヌ 袍アケノキヌ ナ著シ、石イシノオビ 帶ツカ ナ以テ束子、魚イサノオビ 帶イサノオビ ナ佩ビ、帖紙ヒラフキ 檜扇ヒラフキ ナ懷中シ、笏シヤク ナ把リ、淺沓アサケツ ナ穿キテ歩マントスル體、以テ前代ノ朝服ノ變化セシヲ示ス。

一八七 藤原時代風俗 女子

典侍(正裝)

髮ア ナ結ゲ、平ヒラヒタヒ 額サイシ ナ加ヘ、釵カシ 子ハカケイ 及ハカケイ 櫛ハカケイ ナ挿ス、コレヲ寶髻ト稱ス、古制ノ禮裝ナリ、袴イフ、ギヌ 單ウヘノハカマ、五イフ、ギヌ 衣ウヘノハカマ、表ウヘノハカマ 衣ウヘノハカマ、裳ウヘノハカマ ナ著ケ、帖紙カシ ナ懷中シ、手カガ ニ檜扇カガ ナ翳シテ歩マントスル體、中古藤原時代以來上流女子ノ盛裝ヲ示ス。

一八八 中古風俗 賤夫旅行

折フリエ 烏ボシ 帽子ヌノヒタ、レヨノハカマ ナ布直垂イチビ 四布袴ウラダ ナ著シ、草鞋ミセサヤ ナ著ケ、見世コシカタナ 袴ヒウチフクロ ナ付ケタルヲ佩ビ、擔ニナヒカラヒツウハサシク 唐櫃ホカサ ナ二表ヒゲコ 差袋ヒゲコ ナ取付ケタルト、行器ヒゲコ ナ二鬘籠ヒゲコ ナ添ヘタルトナリ、手ヒラウノウチハ ニ蒲葵扇ヒラウノウチハ ナ携ヘタル體、以テ當代旅行ノ困難ナルタメ必要ノ具ヲ携ヘタリシト、卑賤ノ風俗トナリ示ス。

一八九 鎌倉時代風俗 童 貴族

髮モトユヒ ナ高ク上コキヒトヘ ゲコキヒトヘ 髻コキヒトヘ ナ結ビ、濃單ハンシリ、袴ハンシリ、半尻ハンシリ ナ著ケ、頭カケモリ ナ二懸カケモリ 守カケモリ ナ懸ケ、淺沓アサケツ ナ穿キ、毬杖ギツチヤウ ナ以テ毬マリ ナ打

一九〇 鎌倉時代武裝 胴丸

引立ヒキタテ 烏帽子エボシ ナ鉢ハチ 卷マキ シ、鐵直垂テツチクシ 二腰ニウサ 巾フシカダナ ナ著ケ、雙モロユガケ 二弓ユグ 手カタコテ ノ片籠カタコテ 手カタコテ ナ差シ、胴丸ドウマル ノ鐵テツ ナ著シ、一方ニハウジ 白シロキ 鐵テツ 形カタ ナ打ウチ タル兜カブト ナ戴キ、糸卷イトマキ 太刀タチ ナ佩キ、腰コシカタナ 刀フシカダナ ナ差シ、箭影ヤヤ ノ征矢シマウキ ナ盛リタル逆頼サカモリ 殿ドノ 子コ ナ負ビ、一ヒト 所トコロ 藤フタトコロ ノ弓ユグ ナ握リ、扇アウギ ナ把リ、熊皮クマノカ ノ貫ツラヌキ ナ穿キ、床几シヤウキ ナ懸リテ憩イコ フ體、源平以來足利中世迄ノ將士大凡此ノ如シ。



一八一 足利末世武裝 當世具足

月代チ剃リタル髮ヲ亂シテ鉢卷シ、具足下著ニ小袴ヲ著シ、素懸威ノ具足ヲ著シ、兜チ高紐ニ懸ケ、茜色ノ差物ヲサシ、陣大小ヲ插シ、右手ニ采配チ高ク振り、左手ニ大身槍ヲ携ヘテ立チタル體。以テ前代ノ甲冑以下兵器ノ沿革ヲ知ラシム。

武器

三六 突棒

一本

三六 刺又

一本

三六 袖搦

一本

表振杖

杖

一本

以上三種ヲ合セテ之ヲ三道具ト稱ス、徳川時代ニ人ヲ捕フルニ用ヒタル武器ナリ。棒ノ先ニ分銅及ビ鎖ヲ付ケ人ヲ捕フルニ用ヒシ寄道具ノ一ナリ。

二八三 三鍔形馬印

一本

馬印ハ主將ノ馬側ニ建テ、其ノ居所ヲ示ス標ニシテ足利時代ノ中頃ヨリ用ヒタリ。

二八三 鍔

一筋

古代ノ鍔ノ變化シタルモノニシテ、源平時代ニハ手鍔行ハレ、後ニハ手鍔モ廢レテ、遂ニ一種之ニ類スルモノヲ造リ出シ、遠クニ突キ遣ルヨリ鍔ト名ヅケタルモノニシテ、南北朝時代ヨリ書中ニ見ユ。爾來多年ノ研究ヲ積ミテ種々ノ變形ヲ生ジタリ。

三三 鍔形鍔

一筋

三三 鍵鍔

一筋

三三 十文字鍔

一筋

三三 手鍔

一筋

三三 片鎌鍔

一筋

石谷峻三氏出品

廣瀬忠三郎氏出品

同上



二七 直 鎧

一筋 石谷峻三氏出品

二五 笹穂鎧

一筋 杉原光雄氏出品

二三 大身鎧

一筋 同 上

二五三 薙 刀

一振

凸 鞆 上古風俗人形ニ著ク

一枚 御巫 清白氏出品

起原詳カナラザレドモ奥州後三年記ニ其名見エ、源平時代戰場ニ用ヒタルコト諸書ニ見エタリ。元龜天正以後ニ至リテハ其用大ニ衰ヘ、僧侶婦人ノ携フル處トナリ、徳川時代ニハ特ニ婦人ノ武器トナレリ。

二四六 差 物

一本

革ニテ作り、内ナ空シクシテ彈力アラシメ、左臂ニ著ケテ、弦ノ手玉釧等ニ觸ル、チ防グ。又一説ニハ木弓ニハ之ヲ用ヒテ矢勢ヲ助クト云フ。

第二室

武器

二九 毛拔形太刀 (傳藤原秀郷所用)

一振

藤原時代衛府ノ官人所用ノ太刀ナリ。莖ハ直ニ柄ノ形ヲ成シ毛拔形ヲ透シタレバ毛拔形太刀ト稱シ、マタ革緒ニテ佩キタレバ革緒太刀トモ稱ス、本品ハモト伊勢國赤堀村(今三重郡常樂村ノ大字)ニ傳ハリシガ、後山田ノ深井氏ニ傳ハリ、寛政五年更ニ豐宮崎文庫ノ有ニ歸シ近年本館ノ所藏トナレリ。コハコノ種ノ太刀中最古ク且完備セルモノニシテ實ニ稀世ノ珍トイフベシ。但シ鞘包ノ飾損失シ、一ノ足、纏ノ渡卷及ビ帶取ノ菖蒲革等ハ足利時代ノ補足ニシテ最初ハ渡卷ナカリシナリ。

三〇 藤原秀郷朝臣佩刀考證 足代弘訓自筆

一冊 瀬尾吉重氏出品

三四 太 刀 (傳源義朝所用) 國寶

一振 伊勢國朝熊岳金剛證寺出品

源義朝ノ家臣鎌田政家ノ裔野間宗祐ノ寄附スルトコロナリ。宗祐ハ尾張國知多郡内海ノ人、金剛證寺中



真

長卷身 ナガマキノミ

素銅鑰付

一振

興ノ開山佛地禪師ニ從ヒ來リ止マリテ萬金丹製藥ヲ始メ子孫傳ヘテ今ニ至ル。

真

十文字鎗身

銘義國、二目釘、莖缺損

一本

真

印地鎗身

竹節形、一目釘

一本

古へ印地打ノ争ヒニ用ヒタル故ニ此名アリト云フ。或ハ古代ノ鎗ノ一種ナランカ。

真

進物太刀

二振

近古武家ノ儀式ニ於テ、式正ノ太刀ヲ進上スル代リニ用ヒタルモノナリ。

● 矢

十二種

尖箭、鳴鏑矢、一手神頭、數神頭、矢代神頭、角木、野差矢、差矢、繰矢、的矢、真犬射引目、産所引目、征矢、野矢

尖箭鳴鏑矢ハ籠ノ表指ニシテ大事ノ物ヲ射ルニ用ヒ、神頭ハ又矢頭トモ書ス、草鹿アリノ丸物等ノ的ヲ射ルニ用ヒ、矢代神頭ハ矢代ヲ振ルニ用ヒ、角木ハツクラ卷藥等ヲ射ルニ用ヒ、差矢繰矢等ハ遠距離ノ的ニ用ヒ、引目ハ笠懸、犬追物等ニ用ヒ、又産所ノ窺障ヲ退治スルニ用ヒ、征矢ハ籠ノ中差ニシテ戦争ニ用ヒ、野矢ハ狩獵ニ用ヒタリ。

真

打根

一本

徳川時代ニ尻籠ニ入レ又ハ駕籠ノ内、坐右等ニ置キテ不慮ニ備ヘシモノ。

真

白猪空穗

一本

狩獵又ハ旅行等ニ籠ヲ損セザランガ爲メニ用ヒシモノニシテ足利時代ニハ騎馬ノ人ハ専ラ平時ニ之ヲ用ヒタリ。

元

射籠手

一枚

關保之助氏出品

古來甲冑ヲ著セザル時弓射ルニ左手ニ差シテ用ヒシモノニシテ狩獵、流鏑馬、犬追物等ニ用ヒタリ。



八三 物射杵 乘馬又ハ騎射ニ用ヒタリ。

二五 綾蘭笠 模造 一蓋

綾蘭笠ハモト旅行狩獵等ニ用ヒタルモノ。コノ原品ハ奈良手向山神社藏田樂用ノモノニヨリ徳川時代

ニ模造シテ流鏑馬ニ用ヒタルモノナリ。

八三 逆頰籠 一腰

武家式上ノ籠ニシテ獸皮ノ毛列チ逆様ニ張りタレバ此名アリ、多ク主將ノ用ナリ。

八〇 指籠 一腰

腰緒缺

一七三 鐵砲 一挺

銀象嵌ニテ「一ある目あてを知らてみな人のしころもさろにはなす鐵砲」真鍮ニテ「一夢(判)」トアリ。

一四 試胴具足 一領

一夢ハ豐臣時代ノ有名ナル銃手ニシテ、稻富流ノ祖ナリ。

一〇四 腹卷 一領

兜、三枚張花紙綴、漆塗、所々彈痕アリ。日根野形切付札紺絲毛引威、胴、横矧山道花紙綴、  
テフサビデトコロテフツガヒクサズリ、鐵錆地四所蝶番、草摺ナシ、鐵綿嚙、金具廻捻返シ繩目、鐵杏葉付、胸ニ額形八幡大菩薩、背ニ天  
照皇太神宮愛宕地藏權現ノ透金物打、錦襦包籠手添。

シ、金具損失後世造ルトコロ。

腹卷ハ鎧ノ一種ニシテ、中古以來用心ノ爲衣服ノ下若クハ上ニ著シ、腹ニ卷キ背ニテ引合セタルモノニ

四 紺絲威腹當 腹卷ノ略式ニシテ步卒ノ料、又輕裝ニ用フ。一領

三 桶側胴具足 大石義久作 一領

二 銀象嵌四枚胴具足 一領



三五 卯花威胴丸

一領 子爵稻垣長敬氏出品

三〇 伊豫札胴丸

一領 同 上

二九 長鳥帽子形兜

一領

箱書ニ曰。蒲生氏郷奥州ニ於テ百万石拜領入部ノ時暇乞ニ罷出候處秀吉公ヨリ此兜ヲ下賜セラレタリ

延寶五年六月二十九日云々。

三三 陣笠

安政中山田奉行山口丹後守在勤中ノ所用ナリトイフ。一蓋

陣笠ハ武士ノ平時馬上ニ用ヒ、又近世足輕中間等戰爭ニ用ヒタリ。

二七 陣羽織

一領

陣羽織ハ足利時代末ニ具足羽織ト稱セシモノニシテ、陣中小具足ノミノ時著用セシモノナレドモ、後世ニハ甲冑ノ上ニモ用ヒタリ。本品ハ八代將軍徳川吉宗鷹狩ノ時著用セシト傳ヘタレドモ通常鷹狩ニハ此

羽織ヲ用ヒタルコトナシ。

二〇六 軍配團扇

一柄

近古戰爭ニ兵士ヲ指揮シ若クハ方位日取等ヲナスニ用ヒタリ。兵學者ハ軍禮ニ用フルモノトセリ。

馬具

二七二 馬甲

一組

古ハ具裝ト稱セリ。其後中絶シ南北朝ノ頃ヨリマタ行ハレタリ。戰爭ノ時乘馬ニ掛ケ首ニハ馬面ヲ掛ク。

二五三 軍陣鞍

一脊

軍陣鞍ハ軍陣ニ用ヒタルモノニシテ、前輪高ク、鞍壺深ク、其式後世ノ大坪流ノモノニ存セリ。

八九 水干鞍

一脊

水干鞍ハ通常ノ鞍ニシテ、軍陣鞍ニ比スレバ前輪低シ、後世ハ戰爭ニモ用ヒタリ。

一五七 移鞍

一脊

奈良手向山八幡神社舊藏



移鞍ノ義ニツキテ諸説アレドモ、神ニ進メタル牽馬チ直ニ乘尻ニ移ス時置ク鞍ナレバナリトイヒ、又馬寮ノ移文ニヨリテ出ス馬ニ置ク鞍ナレバ此名アリトモ云フ。

八〇〇 鞍 青貝蒔繪

一脊

四三 鞍 皆具

一脊子爵稻垣長敬氏出品

一五〇〇 壺 鐵製、奈良手向山神社舊藏

一隻

一五〇一 壺 唐草透彫、金象眼入(象眼概脱落)

一隻

壺 鐘ノ現存セルモノニシテ本品ノ如ク製作ノ精巧ナルハ稀ニ見ルトコロナリ。

一五〇二 口籠 銅製。牽馬ニ懸クルモノ

一個

第三室

風俗人形

一八三二 中古風俗 男子 貴族

立烏帽子差貫ニ、單直衣ヲ著ケ、坐シテ脇息ニ依リ、手ニ檜扇ヲ携ヘタル體。藤原時代以來足利時代頃迄ノ貴族ノ褻ノ服ヲ示ス。

一八三三 中古風俗 女子 貴族

垂髮ニ紅ノ袴ヲ穿キ、單ニ小袿ヲ重ネタルヲ著シ、坐シテ箏ヲ彈ズル體。貴族女子ノ褻ノ服ヲ示ス。

一八三四 徳川時代風俗 女子 上流武家盛裝

髪ナカたはづしニ結ビ、白ノ下著ニ赤ノ間著ヲ重ネ、帶附シテ打掛ヲ著シ、足袋ヲ穿キ、箱世古ニ簪ヲ插シタルヲ懷中シ、三方ヲ捧ゲテ歩マントスル體。以テ中古ノ小袿ノ變化シタルヲ示ス。

服飾

一八三五 黄櫨染御袍 夏、明治天皇御料

一領



元黄櫨ヲ以テ染メタルニ因リテ名ヅク。紋ハ桐竹鳳凰麒麟ナリ。天子ノ御位袍ニシテ神事ヲ除ク外スベテ嚴儀ニ著御アラセラル。

二五六 黄櫨染御袍 冬、明治天皇御料

一領

二五九 一御齋服 明治天皇御料

一領

主上御神事ニ著御アラセラル。

二五九 二御表袴 明治天皇御料

一腰

二五九 三御大口 明治天皇御料

一腰

二五九 四白御下襲 明治天皇御料

一領

二五九 五白御單 明治天皇御料

一領

二五六 御直衣 夏、二藍三重襷、明治天皇御料

一領

主上平常著御ノモノニシテ長ク引キ給フ故ニ御引直衣オンヒキナホシ又ハ御下直衣オンサゲナホシトモ云フ。下ニハ長キ緋ノ御袴ヲ

著ケ給フ。

二五六 御直衣 冬、白地小葵、明治天皇御料

一領

八四 小 桂 表白地雲立涌綾、中倍縹、裏蒔黄平絹

一領

上流女子常ニ衣ノ上ニ打掛ケテ著スルヨリ名ケタルモノニシテ、裳、唐衣ヲ省キタル略式ノ時用フ。更ニ略シテハ直ニ內衣袴ノ上ニモ用ヒタリ。

三四 狩衣

一領

古クハ狩獵ニ用ヒタルヲ以テ此名アリ。褻服ケノコロモトシテ用ヒ、又神拜ニ白キヲ用ヒテ淨衣ジヤウエト稱シ、卑賤ニ

二四 纈裳

一腰

ハ布ニテ作りタルヲ用ヒテ布衣ト稱シタリシガ、後ニハ織物紋紗等ニテ作り一般上流ノ所用トナレリ。

四〇 絲鞋

一足

古ハ眞ノ纈シボリノヲ用ヒタレド、近代カク繻ヌヒヲ施セリ。本品ハ徳川時代宮中御儀式ニ女官ノ用ヒシモノ。



絲ニテ編ミタル沓ナリ。幼童及武官舞人ノ用フルトコロ。

二五 竅御緒太 大嘗祭ニ天皇ノ召サル、御草履ナリ。 一隻

二六 素襖 一領

室町時代ニ布直垂ノ紋所及腰紐、胸紐、菊綴等ヲ變ジテ素襖ト名ケ、直垂ヨリ下等ノ服ニ作ラレ、江戸時代ニ至リ遂ニ無位無官ノ士人ノ禮服ト定マレリ。

二七 公卿禮服 模造 皆具

隋唐ノ禮ヲ以テ行ハレシ即位禮、朝賀ノ際ニ於ケル公卿着用ノ禮服ナリ。

二八 火事裝束 羽織、胸當、石帶 板倉 六郎氏出品

### 第四室 服飾

二九 平緒 紺地唐組黃鳳紋刺繡 一組

武官及帶劍ヲ聽リタル文官ガ太刀ヲ佩ク時用フルモノニシテ、色ハ劍ノ裝飾ニ隨ヒ紺、紫、緋等アリ、其一條ナルヲ續平緒トイヒ、二條ニ分ケタルヲ切平緒トイフ。四位以上ハ唐組ヲ用フ。

三〇 銀魚袋 一個 石谷、峻三氏出品

魚袋ハ朝廷ノ公事ニ佩用セシモノニシテ、奈良朝ニハ唯當色ノ習ニテ縫ヒタル袋ナリシガ、後ニハ鮫皮ニテ包ミタルモノトナレリ。三位以上ハ金魚、四位以下ハ銀魚ヲ飾リトス。

三一 古帔 推古時代乃至奈良時代頃ノ古帔三十九枚ヲ收ム。 一帖

三二 古帔 額裝、法隆寺所傳奈良時代ノ古帔三十六枚ヲ收ム。 一面

三三 武禮冠 一頭 御巫 清白氏出品

古ハ朝賀、即位等ノ大禮ニ唐風ノ禮服ヲ著スル時武官ノ用フルモノ、明治天皇登極ノ時ヨリ廢セラレ

三四 卷纓冠 繁文 一頭 村岡 力氏出品



武官ノ用フルモノニシテ動作ニ便ナランガ爲ニ垂纒ヲ卷キシモノナリ。  
三六石 帶 瑪瑙巡方丸轆打交 一腰

石帶ハ朝服ニ用フルモノニシテ、古代ハ一條ニシテ金銀玉石等ノ飾ヲ付シ、革帶ト稱セシガ、後二條ニ切リテ石ヲ以テ飾リタル石帶ト呼ブニ至レリ。石ニ玉、瑪瑙、白石其他犀角等アリ。石ノ形狀ニ巡方ジュンパウ丸轆ノ別アリ、巡方ハ嚴儀ニ丸轆ハ通常ノ公事ニ用ヒ、而シテ巡方丸轆打交ハ嚴儀ニモ通常ニモ用ヒ得ヘキヲ以テ通用帶ト稱ス。

### 家什調度

三九行 器 食物ヲ盛りテ持チ運ブニ用フル器ナリ。 一個

三九厨子 棚 第三室風俗人形ニ配ス。 一個

二階棚ニ厨子ヲ設ケシモノニシテ、調度類ヲ置クモノ、又厨子ノミナルヲフボツシ壺厨子ト稱ス。

三七打 置 鍍金橋形 一個

廣蓋ニ載セタル小袖ノ押ヘナドニ用フルモノ、又打枝トモイフ。其實ノ内ニハ香ヲ藏ス。

三六椀 子 黒塗、菊桐、片喰ノ紋蒔繪 五個

傳曰、豊臣家什器、足代弘訓ノ家ニ傳來。

三七木 盃 一個

上杉謙信ガ勳功ノ將士ニ與ヘシモノ。世ニカサガサカツキ春日盃ト稱ス。

三三茶 壺 模造、故實卷物一卷添 一個

徳川時代將軍家ノ料トシテ宇治ヨリ進上セシ茶壺ノ様式ヲ模シタルモノナリ。

三三燈 臺 一基

法隆寺形、原物ニハ鏡板ニ兒童ノ眠リタル繪アレバ俗ニ眠燈臺ト稱ス。照開夢眼觀今古別起灰心對聖賢ノ銘アリ。



一三 葛桶

カウラ フケ 行器ノ一種ニシテ葛ノ輪ヲ繁ク巻キテ造リシ桶ナルヲ以テノ稱ナリ。

一個

三三 脇息

キヤウ ソク

一脚

甲天鷲絨張、金銅籠透菊桐模様火屋付、地墨塗水ニ葵河骨蘆ノ蒔繪、菊桐金紋散、火取香爐同斷、倚懸  
ニ薰爐ヲ装置セシモノ、一種ノ脇息ナリ。

二九 脇息

マクラ

一脚

二七 香枕

マクラ

一個

二六 鏡奩

マクラ

一合

八六 櫛臺

マクラ

一個

二〇 櫛箱

マクラ

一個

御巫清白氏出品

二五 鏡臺

マクラ

一個

二四 眉作道具

マクラ

一組

二〇 黛入

マクラ

一個

二〇 鐵漿付道具

マクラ

一組

二〇 角盥

マクラ

一組

八七 化粧盥

マクラ

一個

二四六 變形獸帶鏡

マクラ

一面

支那製、徑七寸三分

我が國ノ鏡ハ、上古以來支那ヨリ傳來シタルモノ、若クハ、其ノ樣式ニヨリテ、鑄造シタルモノヲ用キ  
タリシガ、藤原時代以後ハ專内國製ノモノヲ用キタレバ、輸入品ハ、其ノ後漸ク跡ヲ絶ツニ至レリ。  
鏡ノ名ハ鏡背ノ模樣ニヨリテ稱スルモノナリ。







四二 山吹雙雀鏡 藤原時代、徑二寸七分 一面 同  
 四三 菊紅葉雙雀鏡 藤原時代、徑三寸五分 一面 同  
 四四 蓬萊鏡 足利時代、徑三寸六分 一面 同  
 四五 三盛龜甲雙雀鏡 足利時代、徑三寸七分 一面 同  
 四六 三菊散雙雀鏡 足利時代、徑三寸一分 一面 同  
 四七 龜甲地雙雀鏡 足利時代、徑三寸八分 一面 同  
 四八 紋畫方鏡 德川時代、銘天下一出雲守、二寸七分五厘角 一面 同  
 四九 布袋柄鏡 德川時代、銘天下一、徑三寸五分 柄三寸二分五厘 一面 同  
 五〇 四神鏡 漢時代 一面 小川白楊氏出品  
 六一 四獸鏡 六朝時代 一面 同  
 六二 團花六花鏡 唐時代 一面 上

文房具

六四 瑞花大團鏡 唐時代 一面 上  
 六五 怪獸葡萄鏡 唐時代 一面 上  
 六六 四神二獸鏡 唐時代、九州出土 一面 上

七六 天平筆 模造 一本  
 一五七 瓦 硯 銘細波 一面  
 一六二 銅 硯 銘曰青巖獻壽 一面  
 一六六 軸 盆 二卷置。卷物ヲ置キテ座敷筋ニ用フルモノ。 一個  
 一〇〇 糸 印 九個



足利時代明國ヨリ輸入セル一種ノ仕込印ナレバ多ク印文讀ムベカラズ、絲印ト稱スルハ彼國ヨリ輸入セル唐絲ノ内ニ入レタルモノナリト云フ説アリ。

二〇三 銅 印 印文大福

一個

本邦製ノ古印ニシテ篆文奇古ナリ。奈良朝乃至平安朝ノモノニシテ世ニ大和古印又ハ延喜古印ナドト稱ス。又其鈕ノ形ニヨリテ鶴頭鈕ノ印トモ稱ス。之ニ類スルモノ間々朝鮮ニモ存セリ。

二〇四 銅 印 印文貞

一個

二〇五 墨 型 鐵製

一個

六 硯

一面 井坂徳三郎氏出品

筑前博多ノ墨工常春園村田氏ニ相傳セシモノニシテ、弘法大師唐ヨリ持歸リシモノナリトイフ。本品ノ傳來ハ左記三條實萬卿ノ消息ニヨリテ詳ナリ。

度會弘訓神主搜索皇朝之史書其用意也甚深切足感嘆矣爲慰其勞附與硯一枚耳

此硯者自 禁中拜賜之物也

嘉永二年五月一日

權大納言 實

萬

樂 器

一〇九 琵琶 雅樂用

一面

神宮神部署出品

一一〇 箏 同上、第三室風俗人形ニ配ス。

一面

同 上

一一一 太鼓

一基

一一二 鉦鼓 臺裏書曰樂器氏神田内匠作

一基

一一三 鞆鼓

一基

一一四 篳篥 銘翁丸

一管

一一五 鳳笙 銘鳳凰丸

一管



極書曰

右之古管作者不知年數凡及三百年餘尤音律勝可爲秘藏重器也

明和三丙戌歲八月

從四位下右京亮貊則安(花押)

二五〇 龍 笛

二管

二五二 龍笛筒 (相笛入)

一個

二五七 龍笛筒

一個

二五六 神樂笛

一管

二五九 高麗笛

一管

二八〇 舞樂袍 納蘇利用

一領

武官着用ノ闕腋ノ袍ト同シクシテ袖括アルヲ異ナリトス。左方ニハ赤色ヲ右方ニハ青色ヲ用フルヲ常トス。舞樂ノ時コノ上ニ補襦ヲ著シテ下ニ差貫ヲ著ク。

舞樂ハ雅樂ニ合セ舞フモノニシテ、天竺漢土ノ樂トシテ多ク佛教ノ傳來ト同時ニ渡來シタルモノナルガ後ニハ神事ソノ他朝廷ノ諸儀式ニモ用ヒラル、ニ至レリ。

二五二 舞樂補襦 納曾利、裏書曰正德二辰稔九月三日東大寺八幡宮 一領

二五〇 舞樂表袴 納曾利 一腰

二五三 腰 帶 裏書曰正德四年甲九月三日東大寺八幡宮 一腰

二五四 舞樂牟子 納曾利 一頭

二五五 舞樂桴 納曾利、傳、東大寺八幡宮舊藏 一本

二五六 舞樂袍 左方 一領

二五七 舞樂袴 左方 一腰

二五八 舞樂袍 右方、林歌 一領

二八〇 舞樂袍 關陵王用 一領



一七 伎樂面 崑崙、模造

一面

伎樂ハクレガクト訓ス。佛教ト同時ニ渡來シタル所謂英國ノ樂ニシテ、奈良朝時代ニ行ハレタルガ中絶シテ今ハ傳ハラス。ソノ曲目ノ一部ハ舞樂ノ中ニ編入セラレテ後世ニ殘レルモノアリ。

一六 伎樂面 迦樓羅、模造

一面

一四九 舞樂面 貴得、傳曰東大寺八幡宮舊藏

一面

一四〇 舞樂面 散手(?)傳曰東大寺八幡宮舊藏 應德三年云々ノ刻銘アリ

一面

一〇三 能面 白尉、日光作

一面

山中梅之助氏出品

一〇二 能面 黒尉

一面

同上

一〇九 能面 大飛出

一面

一〇三 能面 大戀見、款損

一面

一五三 舞樂面 納曾利、裏書曰正元元年九月三日取順作 正德三年九月三日令修復者也東大寺八幡宮

一面

一五六 舞樂面 散手、裏書曰正四位上出羽守 太秦俊壽宿禰(花押)八十一歳ノ作

一面

遊戯具

一四二 雙六盤 筒、白黒石、賽二個添 一面

雙六ハ支那ヨリ傳來シタル遊戯ニシテ、小兒ノ玩ブ畫雙六モ亦之ヨリ轉ジタルモノナリ。

一四 繪骨牌 十枚

支那骨牌一、うんすん骨牌一、職人骨牌六、唐武者一。金箔地ニ極彩色ヲ以テ、風俗畫ヲ描寫セシモノ。

一八 御所人形 五種 村岡 力氏出品

御所人形ハ宮中又ハ貴紳ヨリ多ク賜ハルヲ以テ名ケ、又關東ニ多ク來リシヲ以テ御土產人形トモ云ヒ、其間屋ノ名ニヨリテ伊豆倉人形トモイヘリ。



三三ノ一 加茂人形

加茂人形ハ加茂社家ノ造リ出セルヨリ此名アリ。衣服ヲ極メ込ミテ造リタレバ一名木目込人形トモ稱ス。

十二軀

三四

三三ノ二 御土産人形

二種

三三ノ三 手遊アソビ 鴛鴦、熊、牝鷄、犬

四個

四六〇 羽子板ハゴイタ 黒田家定紋付、傳曰黒田家所用、享保年間製二柄

二六五 釜フ 淨汲作

一口

二六六 風爐フスマノウチ 清左衛門作

一個

三三 飯口羽釜コシキクチハガマ 天明作

一口

中山讚治氏出品

天正十五年太閤秀吉北野ニ大茶湯會ヲ開キシトキ中山氏ノ祖正忠携ヘ上リテ、献茶ノ榮ニ與リシモノナリト云フ。

三〇〇 茶杓 竹村藏庵作

一本

三〇三 棗ササ 殘月時鳥蒔繪

一合

茶手繪ノ文字ハ高尾ノ筆意ナリト、高島藍泉ノ蓋裏書アリ。

四一 毬香爐

一個

支那ニテ被フスマノウチ 中ニ用ヒシモノ、遺風ニシテ火入廻轉ス。之ヲ臺ノ上ニ置キ、鑲アル場合ハ釣リ用ヒテ釣香爐トイフ。

一六 香道具

一具

盤板共ニ揃合朱塗、小板二枚、鞍馬人形一對、同板二枚、黒柿臺二個、矢數香用矢黒柿臺付十一本、關花香用櫻紅葉臺付十本、瓢箪金總付十個、銀總付十個  
沈木、白檀等各種ノ香木ヲ薰シ、人々之ヲ暗射シテ勝負ヲ決ス。之ヲ香合ト云フ。其方法ニヨリテ種々ノ名アリ。隨ツテ其勝負ヲ標スル道具モ異ルヲ用フルナリ。



七五 香 盒 傳祥瑞作

三三 源氏香箱

二六 焚 殻 入 蓋 欠

三九 鞠 臺

一合  
一合  
一個  
一基

貨 幣

○ 舊貨紙幣

徳川時代金銀貨模造、本邦古錢、支那錢、安南錢、畫錢及厭勝錢、舊藩紙幣

三二 軍用千兩箱

一個

三三 古金壺及蓋石

一個

石谷峻三氏出品

維新前火盜難豫防ノタメ、金錢ヲ藏シ、床下土中ニ埋メシモノ。

第五室

神宮遷宮式關係資料

二四九 皇大神宮遷宮式模型

神宮式年遷宮ハ二十年毎ニ行ハセラル、御定ニシテ、奉遷勅使ノ參向アリ。渡御ハ夜ヲ以テ行ハセラレ御神體ハ大宮司、少宮司禰宜之ヲ奉戴シ、絹垣行障ヲ繞ラシ奉リ、奉遷勅使前行シ、祭主後ニ供奉シ、以下ノ神官各其ノ所役ヲ奉シテ前後陣ニ供奉ス。コハ明治四十二年十月二日ノ皇大神宮渡御ノ御儀ヲ謹模シタルモノナリ。

三五〇 赤紫綾 御蓋 皇大神宮御料

一枚

明治四十二年式年遷宮渡御御用式後撤下

三四三 菅 御笠 同上

一枚



四四 羅 紫 御翳 同上

ウズモノムラサキノオンサシハ

一枚

四五 菅 御翳 同上

スダノオンサシハ

一枚

以上明治二年式年遷宮調進、同二十二年撤下

○皇大神宮御神寶御裝束容器

五七 細辛 櫃 御弓容器

一合

五八 細辛 櫃 御太刀容器

一合

五九 辛 櫃 御裝束容器

一合

六一 辛 櫃 金銅御櫛、其他容器

一合

以上明治四十二年式年遷宮御用

第六室

神宮祭器 祭具

奥二七  
美三三 神宮祭儀用土器

七種

神宮大御饌ニ用キル土器調製ノ起源ハ、皇大神美濃國伊久良河宮ニ御遷行ノ時、同國采女忍比賣之ヲ獻  
セシニ初マリ、五十鈴宮ニ御鎮座ノ後ハ、伊勢國多氣郡宇爾郷ニ居住シ、天毘良加山ノ埴ヲ採リ、毘佐々  
井ノ水ヲ以テ年中祭祀ノ土器ヲ調進シ、其ノ子孫世々祖業ヲ襲ヒテ神宮ニ奉仕シキ。後世幾多ノ變遷ア  
リシモ、明治十五年之ヲ復舊シ、モトノ宇爾郷ナル明星村大字養村ニ於テ、調製納入スルコト、ナレリ。

六六 御鹽焼型

二個

神宮御料ノ御鹽ハ、皇大神宮二見ニ御遷幸ノ時佐見都日女ノ獻納ニ始マリ、大若子命御沙濱竝ニ御  
鹽山ヲ定メ、其ノ山ノ木ヲ伐リテ御鹽ヲ燒キ進メラレタルニ基因シ、今モ二見ノ御鹽殿ニテ調進ス。即  
毎年夏期御鹽濱ニテ水鹽ヲ汲取リ、殿内ニ於テ燒キ堅メ、之ヲ荒鹽ト稱シ御鹽殿ニ貯藏シ、必要ニ應ジ



六四 火鑽具

テ更ニコノ焼型ヲ以テ堅強ニ精製シ、御料ニ供ス。

一具

六四 結燈臺

ムスビトウダイ

神宮忌火屋敷(御炊殿)ニ於テ、神饌品ヲ調理シ奉ル時ニ用キル忌火ヲ出ス具ナリ。

一基

六五 瓶子

ヘシ

神宮祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

一個

六三 簀

ス

二個

六六 耳皿

ミ、ヂラ

二個

六六 饗膳案

キヤウゼン、アン

一脚

二四 柳宮

ヤナ、イ、バコ

以上四點ハ、神宮遷宮奉幣又ハ、杵築祭等ノ節、饗膳ニ用キラル、モノナリ。

三合

神宮撤下御物

神宮新年祭、神嘗祭、新嘗祭、月次祭等ニ朝廷ヨリ奉納アラセラル、幣帛ノ容器ナリ。

○皇大神宮御料

五〇 小紋紺綾御衣

コモン、コン、アヤノギヨイ

一領

五一 紫羅御裳

ムラサキウスモノ、オンモ

一腰

五二 御帶

オン、オビ

二條

五三 屋形紋御被

ヤカダモンノミフスマ

一條

五四 小窠錦御被

セウクワニシキノミフスマ

一條

五五 錦御枕

ニシキノオンマクラ

一基

五五 新羅組

シラギ、グミ

一條



五三 錦御履

五二 錦御襪

五七 御櫛笥

五六 御鏡

五五 御白玉

五四 御衣篋

五三 奉座楊篋

五二 玉纏御太刀

五一 須我利御太刀

以上明治三十三年臨時遷宮調進同四十二年撤下

一兩

一兩

一合

一面

一連

一合

一合

一柄

一柄

三六 金銅造御太刀

三五 鷄尾御琴

以上明治二年式年遷宮調進同二十二年撤下

一柄

一面

○豊受大神宮御料

五五 緋錦御衣

五六 吳錦御衣

五七 小綾帛御衣

五八 吳錦御裳

五九 紫御帶

五三 刺車錦御被

一領

一領

一領

一腰

一條

一條



五十四 紫御髻結 ムラサキノオンモトユビ

五十三 錦御枕 ニシキノオンマクラ

五十二 錦御鞆 ニシキノオンクツ

五十一 錦御襪 ニシキノオンシタウツ

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

五十 第一御太刀

四十九 第二御太刀

四十八 第三御太刀

四十七 御鞍 オンハクバ

四十六 御白馬形 オンハクバガタ

一條

一基

一兩

一兩

一柄

一柄

一柄

一具

一匹

以上明治二十二年式年遷宮調進同二十二年撤下

○皇大神宮別宮荒祭宮御料 アラマツリノミヤゴレウ

五十三 白葛御靴 シロツマラノオンユキ

五十二 御吳床 オンゴシヤウ

五十一 菅御笠 スダノオンカサ

五十 青毛御彫馬 アヲケノオンエリウマ

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

二腰

一具

一枚

一匹

○皇大神宮別宮月讀宮御料 ツキヨミノミヤ

四十九 金銅造御太刀 コンドウツクリノオンタチ

四十八 銅黒造御太刀 ドウコクツクリノオンタチ

二柄

一柄



- 四九二 梓御弓 アツサノオンユミ 二張
- 四九三 革御靴 カハノオンユギ 二腰
- 四九四 蒲御靴 ガマノオンユギ 一腰
- 四九五 鶴斑毛御彫馬 ツルバナゲノオンエリウマ 一匹
- 四九六 御楯 オンタテ 二枚
- 四九七 御鉾 オンホコ 二竿
- 四九八 御鈴 オンスズ 一口
- 四九九 陶猿頭形御硯 スエノサルガシラガタノオンスマリ 一面
- 五〇〇 金銅御火桶 コンドウノオンヒツケ 一口
- 五〇一 御大筒 オンオホケ 二口
- 五〇二 御小筒四口添 オンチケ 二口

- 五〇二 御鞍 オンクラ 一具
- 五〇三 御鏡 オンカガミ 一面

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

○皇大神宮別宮伊佐奈彌宮御料

- 五〇六 錦御靴 ニシキノオンユギ 一腰
- 五〇七 金銅御麻笥 コンドウノオンマケ 二口
- 五〇八 金銅御杵 コンドウノオンカセヒ 二枚
- 五〇九 金銅御櫛 コンドウノオンタトリ 二基
- 五〇 御木絡練 オンカケ 二基
- 五一 御篋 オンツツ 二枚



五三 五色御吹玉

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

一連

○皇大神宮別宮瀧原竝宮御料

五四 銀銅御櫛

一基

五五 銀銅御麻笥

一口

五六 銀銅御杖

一枚

五七 御荒篋

一合

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

○皇大神宮別宮伊雜宮御料

五八 金銅御高機

一具

明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

○皇大神宮別宮風日祈宮御料

五九 御鞞

一枚

明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

○豊受大神宮別宮多賀宮御料

六〇 御櫛笥

一合

明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

○豊受大神宮別宮土宮御料

六一 御胡錄

二腰

六二 御鞞

一腰



以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

第七室

神宮寶物

四〇 御鞆トモ

一枚

寛正三年御遷宮奉納ノ古神寶ナリ。

四七 御太刀殘缺

三

明治二年皇大神宮東御敷地、内玉垣北御門良ノ方ヨリ發掘ノ古神寶ナリ。

三六 皇太神宮政印シヤウイン

一顆

天武天皇白鳳年間、禰宜荒木田神主石門ノ解狀ニヨリテ、神祇官上奏シ、宣旨ヲ賜リテ鑄下セラレ、即皇大神宮政印ノ始ナリ。其ノ後承歴三年二月二十一日、外院ノ災上ニ際シ燒失セシヲ以テ、同年七月二

三九 皇大神宮政印印筒シヤウインインダ

一個

十三日原形ニ模シテ、再ビ鑄下セラレ。承歴三年七月二十三日政印ト共ニ、寄進セラレタルモノナリ。

三〇 豐受大神宮政印シヤウイン

一顆

貞觀五年九月十三日、禰宜度會神主眞水ノ解狀ニ依リテ、神祇官上奏シ、内宮政印ノ例ニ准ジテ、鑄下セラレ。

三一 豐受大神宮政印印筒シヤウインインダ

一個

元木造ナリシヲ、承徳二年十二月二十六日銅ニ改鑄セラレ。側面ニ「宣旨奉造承徳二年十二月二十六日」ト彫メリ。

三二 舊大神宮司印シヤウイン

一顆

天平十一年二月二十三日、神祇官ノ上奏ニ依リテ始メテ、之ヲ鑄下セラレ、寶龜三年宮司ノ宿館燒亡シ



其ノ災ニ罹レリ。後仁壽三年十一月三日、大神宮司大中臣朝臣伊度人ノ解狀ヲ以テ、神祇官ヨリ上奏シ齊衡二年八月十日、原形ニ模シテ再ビ鑄下セラレ。

舊大神宮司印笥

一個

元木製ナリシテ、長徳四年五月二十日銅ニ改鑄セラレ。側面ニ「大神宮司正印笥元木彫也而大司公忠長徳四年五月二十日鑄改於銅一ト彫メリ。」

貝 桶 貝百八十八對添

一對

慶長十二年新上東門院ヨリ、内宮子良館ニ賜ハリシモノニシテ、貝ノ歌ハ宸筆ヲ始メ女院、時ノ禪閣關白大臣等、高貴ノ人ノ書カレタルモノナリトゾ。子良トハ、朝夕ノ大御饌、其ノ他祭典ニ奉仕セシ、童女ノコトナリ。

御田扇

二本

豐受大神宮御常供田御田植神事ノ田舞ニ用ヒシモノナリ。

德川將軍奉納太刀身

一文字作

長二尺三寸二分、刃文丁字、在銘一文字 將軍家光皇大神宮ニ奉納

來國行作

(無銘)長二尺三寸二分、刃文半ヨリ上廣直刃下丁字 將軍家光豐受大神宮ニ奉納

吉信作

長二尺七寸四分、刃文直刃丁字交裏樋アリ、在銘吉信 將軍家綱皇大神宮ニ奉納

康光作

長二尺四寸七分、刃文反亂、在銘康光 將軍家綱皇大神宮ニ奉納

長光作

長二尺六寸一分五厘、刃文直刃、在銘長光 將軍家綱皇大神宮ニ奉納

助長作

長二尺三寸九分、刃文直刃小丁字交、彫物梵字、在銘助長 將軍家綱豐受大神宮ニ奉納

長光作

長二尺三寸七分五厘、刃文大丁字、在銘長光 將軍家綱吉豐受大神宮ニ奉納

友成作

長二尺四寸五分、刃文小亂交坂心フクラノ内二重刃、在銘友成 將軍家綱吉豐受大神宮ニ奉納

守次作

長二尺五寸三分、刃文直刃沸付、在銘守次 將軍家綱吉豐受大神宮ニ奉納



五三 俊忠作

長二尺四寸九分五厘、刃文直刃亂交ル、在銘俊忠  
將軍家宣皇大神宮ニ奉納

五四 國俊作

長二尺五寸三分、刃文直刃佩裏ニ坂亂交ル、在銘來國俊  
將軍家宣豐受大神宮ニ奉納

五五 守次作

長二尺二寸七分五厘、刃文亂五ノ目交リ表裏樋二筋、在銘守次  
將軍家繼皇大神宮ニ奉納

五六 助久作

長二尺四寸二分五厘、刃文丁子、在銘助久  
將軍家繼豐受大神宮ニ奉納

五七 正恒作

長二尺三寸二分、刃文直刃亂交ル、在銘正恒  
將軍吉宗皇大神宮ニ奉納

五八 吉包作

長二尺二寸九分五厘、刃文直刃、在銘吉包  
將軍吉宗皇大神宮ニ奉納

五九 景依作

長二尺三寸六分、刃文小亂直刃交ル表裏樋アリ、表銘備前國住人左近將監景依造、  
裏銘永仁六年十月十日、將軍吉宗皇大神宮ニ奉納

六〇 國永作

長二尺五寸一分、刃文小丁子、在銘國永  
將軍吉宗豐受大神宮ニ奉納

六一 國俊作

長二尺三寸七分五厘、刃文直刃足入佩裏中央ニ丁子アリ、在銘來國俊  
將軍吉宗豐受大神宮ニ奉納

六二 助吉作

長二尺三寸六分、刃文丁子、在銘助吉  
將軍家重皇大神宮ニ奉納

六三 守友作

長二尺五寸一分、刃文直刃中央ヨリ下丁子心ニ亂ル、在銘守友  
將軍家重豐受大神宮ニ奉納

六四 助宗作

長二尺三寸九分、刃文坂足丁子竊ニカアル、表銘一文字、裏銘助宗  
將軍家治大神宮ニ奉納

六五 信房作

長二尺三寸五分、刃文直刃小亂交ル、在銘信房  
將軍家治皇大神宮ニ奉納

六六 國光作

長二尺四寸三分、刃文直刃亂交ル、在銘國光  
將軍家治豐受大神宮ニ奉納

六七 遠近作

長二尺三寸二分五厘、刃文丁子、在銘遠近  
將軍家齊皇大神宮ニ奉納

六八 雲生作

長二尺三寸四分五厘、刃文直刃、在銘雲生  
將軍家齊豐受大神宮ニ奉納

六九 正廣作

長二尺三寸四分五厘、刃文直刃、在銘肥前國河内大椽藤原正廣  
將軍家慶皇大神宮ニ奉納

七〇 忠廣作

長二尺三寸五分、刃文亂、在銘肥前國住近江大椽藤原忠廣  
將軍家慶豐受大神宮ニ奉納

七一 是一作

長二尺三寸五分、在銘藤是一  
將軍家定大神宮ニ奉納

七二 國正作

長二尺三寸七分、欄刃五ノ目、在銘藤原國正  
將軍家茂皇大神宮ニ奉納



五四 康繼作 長二尺三寸三分五厘、刃文五ノ目亂、在銘康繼

五五 元繼作 長二尺三寸五分、刃文丁子、在銘元繼

四二 太刀 將軍慶喜豐受大神宮ニ奉納、切羽四枚金、祖金著、目釘金

四三 太刀 將軍家綱皇大神宮ニ奉納、身ハ別ニ藏ム、祖金著、目釘金

四四 太刀 將軍家綱皇大神宮ニ奉納、身ハ別ニ藏ム、祖金著、目釘金

四七 太刀 折紙大和千手院、拵銅作金覆輪桐居紋、切羽四枚金、祖金、目釘金著、京都所司職伊賀守松平忠周皇大神宮ニ奉納

神宮諸祭畫圖

二五六 嘉永二年豐受大神宮遷宮式圖 一卷

二五〇 明治四十二年豐受大神宮遷宮式圖 一卷

二五一 明治四十二年皇大神宮遷宮式圖 一卷

二五三 明治四十二年皇大神宮上棟祭並宇治橋渡初圖一卷

上棟祭ハ神宮御造替諸祭中ノ御棟木奉揚ノ祭儀ナリ。大宮司、少宮司、禰宜以下諸員及造神宮主事、技師、屬、技手、忌鍛治、小工等參列シ、大宮司以下諸員棟木奉揚ノ式ヲ行ヒ、庭上ノ小工千歳棟、萬歳棟、曳々棟ト三度喚ビ、屋上ノ小工聲ニ應ジテオ、ト答ヘ、棟木ヲ打ツコト三度、餅ヲ西北ノ方ニ投ズ。次ニ神饌奉奠、祝詞奏進、諸員八拜ノ儀アリテ祭儀了シ。宇治橋ハ皇大神宮域内ヲ流ル、五十鈴川ニ架セル橋ニシテ、造替ノ度毎ニ渡初ノ式ヲ行フ。先ヅ橋姫社頭ニテ祭儀アリ。ソレヨリ渡女以下行列ヲ整ヘテ渡初ヲ行フ。渡女ハ宇治山田市及度會郡内ニ居住セル一家三夫婦揃ヘル者ノ中ヨリ撰ビ、其子孫夫婦ハ附添トシテ、特ニ其列ニ加ハルコトヲ許サル。

四八五 神宮御造替御木曳圖 二卷

御木曳トハ神宮御造替ニ當リ、古來神領ノ人民勞力ヲ献ジテ、御用材ヲ兩宮域内ニ搬入スルヲ云フ。御用材ハ前遷宮ヨリ十四年目ニ山口祭、木本祭ヲ行ヒ。御柚山ニ於テ伐採セラル、例ナリ。古ヘ皇大神宮



ノ御袖ハ神路山、豊受大神宮ノ御袖ハ阿曾山ナリシガ、後世用材ノ缺乏又ハ戦亂ノ爲各地ニ變更セラレ近代ニ至リ兩宮共木曾山ニ定メラレタリ。

内宮御料材ハ之ヲ大湊貯木場ニ、外宮御料材ハ之ヲ宮川貯木場ニ回漕シ、先ヅ吉日ヲ選ビテ兩宮ノ御櫃代木(御祝木)ノ奉曳式ヲ行フ。(明治二十二年度ヨリ造神宮使廳ノ手ニテ行ハル)次ニ内宮ノ御料材ハ舊内宮領ノ町村民五十鈴川ヲ川曳シ、外宮御料材ハ舊外宮領ノ町村民中島町ヨリ之ヲ木曳車ニ積載シテ陸上ヲ宮城ニ奉曳ス。其狀各大字又ハ町村毎ニ團體ヲナシ、夫々意匠ヲ凝ラシタル修飾ヲナシ、各人家事ヲ願ミズ奉曳ノコトニ從フ。實ニ神都ノ一偉觀ナリ。

四六

皇大神宮元日御饌神事御塩奉仕圖

皇大神宮元日御饌神事參進圖

豊受大神宮元日鮎饗神事御塩奉仕並參進圖

明治四年神宮改制以前ノ祭儀圖ナリ

一卷 神宮文庫

四七 皇大神宮舊式祭典圖 (第十二)

一卷 神宮司廳

明治四年神宮改制以前ノ祭儀、贊海神事、御贊濱行事ヨリ興玉祭ニ至ル三圖ヲ收ム。

四八 豊受大神宮舊式祭典圖 (第十四)

一卷 神宮司廳

明治四年神宮改制以前ノ祭儀、濱出神事途中行装圖ヨリ懸稅奉仕圖ニ至ル八圖ヲ收ム。

九 御田祭圖

一卷

皇大神宮御常供田御田植祭ノ圖ナリ。此神事ハ内宮ハ四鄉村大字楠部、外宮ハ岡本町宮崎ナル御常供田ニテ、毎年五月吉日ヲトシ行ハレシガ、明治四年廢セラレ。

第八室

古文書 畫圖 典籍 筆蹟 金石文

五四 永仁四年八月廳宣<sup>テウセン</sup>

一通

此廳宣ハ光明寺舊記中卷ニ收ムル文書ノ本紙ニシテ、文意ハ伊勢國三重郡船橋ノ住人乘光ト云フ者同郡



ナル平松神田二段ノ内若干歩ヲ恣ニ耕作スルヲ以テ、法常住院領雜掌度會有長ノ訴ニ由リテ、之ヲ禁遏セントスルニ在リ。

凡ソ廳宣トハ檢非違使廳別當ノ下文ヲ云ヘレド、此處ナルハ往古我神宮ニ稱スル處ノモノニシテ、神官相集リテ宣フル下文ナリ。其書式ニ於テハ必ず在職神官正員全部ノ署名アレドモ、廳宣ノ下ノ人名ハ記スルモノト記セザルモノトアリテ、必ずシモ一様ナラズ。

### 105 寬永十五年伊勢御師旦所沾券

一通

往古我神宮ニ在リテハ私人ノ委託ニ應ジテ祈禱ヲ爲ス者ヲ師職ト云フ。又之ヲ御師トモ云フ。而シテ其祈禱ヲ師職ニ委託スル者ヲ且家ト云ヒ、且所ト云フ。又古クハ之ヲ道者ト云ヘリ。近世ニ於ケル且家ト師職トノ關係ヲ見ルニ、毎年師職ヨリ且家ニ大麻ト幣トヲ配付シ、之ニ添フルニ土産物ヲ以テス。而シテ之ヲ受クルトコロノ且家ハ、各々初穂トシテ若干ノ金品ヲ寄付スルナリ。又且家ノ者ノ參宮ニ當リテハ其師職ノ家ニ宿泊シ、初穂ヲ獻ジ祈禱ヲ行ヒタリ。道者賣渡ト云ヒ、且所賣渡ト云フハ、即チ上ニ述ベタル關係ニ於テ生ズル處ノモノニシテ、此ノ如キ賣

### 106 大々神樂奉奏文

一通 堤 治 助氏出品

買ノ證書ハ足利氏ノ末葉以降ハ専ラ道者賣渡、又ハ賣渡申道者ナド、記シテ、其本文ハ極メテ簡單ナリシゲ、後世ニ至ルニ從ヒ其條項自ラ綿密トナレリ。明治四年神宮御改制前ニ在リテ神樂ヲ奉奏セントスル者ハ、各々其師職ノ邸ニ於テ之ヲ行ヘリ。此文書ハ即チ其奉奏文ナリ。此ニ女院トアルハ靈元天皇ノ中宮新上西門院藤原房子ニテ、元祿十五年ノ奉奏文ハ五十歳御賀ノ時ノモノナリ。

### 107 正徳三年大内人本職

一通

此祭主下文ハ宮掌大内人職ノ補任、所謂本職ノ任狀ニシテ、今謂フ所ノ辭令ナリ。明治四年以前神宮職員ノ任命ハ稱宜ニ在リテハ宣旨ヲ以テ之ヲ補シ、稱宜大内人宮掌等ハ祭主之ヲ補ス。按此下文ハ祭主ノ政所代ノ請求ニ應ジテ、祭主ヨリ祭主署名ノ任狀同文ノモノヲ一回ニ三十六枚ヲ政所代ニ送ル、祭主ニ來リ司家或ハ政所代ノ家ニ宿泊スル時ハ無記名ノ本職若干枚ヲ贈リテ其料ニ代フルコトアリ。政所代ハ之ヲ司家ニ送り、司家ハ之ニ大司署名ノ奉行文ヲ記シタル一紙ヲ繼ギ合セテ之ヲ宮政所ニ送ル、宮政所ハ又之ニ奉行文ニ正員連署政印ヲ行ヒタル一紙



ヲ繼ギ合セテ之ヲ司家ニ返戻ス。司家ハ之ヲ政所代ニ分與シ、其餘ヲ己ガ家ニ留ム。茲ニ於テ本職ノ任命ヲ請フ者ハ司家又ハ祭主ノ政所代ニ申出ツレバ、其家ニテ本人ノ氏名奏某ヲ撰定シ、此繼合セタル初ノ一紙、即チ祭主ノ下文ニ其名ヲ記入シテ之ヲ本人ニ附與スルナリ。以上ハ神宮御改制前禰宜ニシテノ談ニ由リテ之ヲ記ス。祭主ノ政所代タリシ松本偉彦氏

### 三二七 建長六年十一月十七日政所下文

本書ハ美作國久米郡坪和西郷地頭職讓與ニ關スル、鎌倉幕府政所ノ下文ナリ。時ノ將軍ハ宗尊親王ニテ、署名ノ處ニ別當陸奥守トアルハ平重時、相模守ハ平時頼ナリ。後ニ掲ケル正和二年七月五日ノ讓狀ヲ參照スヘシ。

〔本文〕 將軍家政所下 美作國坪和西郷住人「可令早密嚴院阿闍梨覺玄爲地頭職事」右任祖父入道左馬頭義氏法名正義去月二十九日讓狀「彼職守先例可致沙汰之狀所仰如件以下」

建長六年十一月十七日

案主 清原

令左衛門少尉藤原

別當陸奥守平朝臣(花押)

相模守平朝臣(花押)

政所トハ鎌倉、室町兩幕府ノ廳衙ノ稱ニシテ、幕府ノ政務ヲ總攝スルトコロナリ。

### 三二八 至德二年田地沽券

一通

本書ハ代々相傳ノ田地ヲ賣渡ス證書ナリ。

〔本文〕 賣渡 替田事

合貳段者 在所里坪等在本券文、段別捌斗陸升者  
十合升定、同段別葉三束、已上百姓方沙汰也

右件田地者、若狹上座定後買得相傳于今無子細者也、然依有要用、直錢拾陸貫文爾限永代相副手繼證文等(九通)所賣渡勸修寺上島八郎衛門殿買也、雖經後々末代、更不可有他妨者也、若萬壹於此田地不慮煩出來之時者、本錢以壹倍可致辨沙汰者也、兼又有限所役田別參百文、每年無



懈怠可有其沙汰也、一切此外萬雜公事無之者也、仍爲備後々末代ノ龜鏡、賣券之狀如件  
至德貳年二月二十三日  
上座定俊(花押)

三三二 弘安五年院宣

一通

本書ハ左京職ノ者、佛名院ノ寺領ヲ犯スヲ以テ、院宣ヲ下シテ其妨ヲ止メラレシナリ。

〔本文〕 佛名院所司等申「寺邊小田左京職成」煩候由事任先例可「止其妨之旨被仰知關一朝臣之處請文  
如此向」後停止職改可爲寺「領者依」院宣執達如件」

五月七日

民部 卿(花押)

大納言僧都御房

院宣トハ院ノ有司院ノ旨ヲ奉シテ下知スルトコロノ文書ヲ云フ。白河天皇遜位ノ後猶院中ニテ政ヲ聽ク、  
即チ院政ノ初ナリ。

三三九 正和二年美作國埴和西郷地頭職讓狀

一通

本書ハ美作國久米郡埴和西郷半分地頭職ノ讓狀ナリ。書中ニ見ヘタル權律師覺實ハ密嚴院ノ僧ナリ。

相模守ハ北條高時ニシテ、修理權大夫ハ北條貞顯ナリ。前ニ掲ケシ建長六年十一月十七日ノ政所ノ下文  
ヲ參照スベシ。

〔本文〕 讓渡 權律師覺實所

美作國埴和西郷西方半分「地頭職事」

右地頭職大納言僧都覺實一期之「後者寄合尾張孫三郎義博與覺實」爲中分可知行但四名除之領  
家「御年貢以下御公事等者半分津々」可辨勤也仍爲後日所讓渡之狀如件」

正和貳年七月五日

法印 覺(缺)

〔裏書〕 任此狀可令領掌之由仰依下知「如件」

元亨四年九月十三日

相模守(花押)  
修理權大夫(花押)

三三六 正和四年八月十四日安堵狀

一通

本書ハ僧侶ノ遺跡讓與ニ關スル安堵狀ニシテ、書中ニ見エタル相模守ハ北條基時、武藏守ハ北條貞顯ナ  
アトシヤク



リ。其僧侶ノ名ハ共ニ明ナラズ。

〔本文〕 内大臣僧正跡坊舎所領等」事任先師水本僧正去年」十月廿一日讓狀可致沙汰之狀依仰」執達如件」

正和四年八月十四日

相 模 守(花押)  
武 藏 守(花押)

按察律師御房

安堵トハ武家時代ニ於テ土地ノ所有權ヲ承認スルチ云フ。時世ノ轉變ニアフモ猶舊ノ如ク父祖ノ所領ヲ知行シ、或ハ久シク中絶セル舊領ヲ故アリテ返シ與フルコトヲ本領安堵ト云ヒ、其證驗トシテ御教書、若クハ下文、奉書等チ下シ與フ、コレ即安堵狀ナリ。

### 三三五 元弘三年足利尊氏下知狀

一通

本書ハ伊豆國走湯山密嚴院寺務職ニ關スル下知狀ニシテ、書中ノ左兵衛督ハ足利尊氏ノコトナリ。宰相法印御房ハ其氏名明ナラズ。

〔本文〕 伊豆國走湯山密嚴院寺務職事」所申付也任先例可被領掌之狀」如件」

元弘三年九月十四日

左 兵 衛 督(花押)

宰相法印御房

### 三三四 曆應二年高師冬願文

一通

本書ハ高師冬ガ東國ニ赴キ下總常陸ニ轉戦シタル時ノ願文ナリ。走湯權現ハ伊豆神社ノコトニシテ、又伊豆山權現トモイヘリ。

〔本文〕 敬白

走湯權現

立願事

右幕府之雄兵各安全常州之」梟徒悉敗亡者且達上聞且勵」中誠專途當山之造營宜責權扉之」威光 我朝之刃安神道之再昌宜在」此戰功唯願顯靈效敬白

曆應二年八月十九日

參河守師冬(花押)

### 三三三 康安二年口宣案

一通



本書ハ僧正光濟ヲ以テ、眞言宗醍醐寺ノ座主ト爲ス口宣案ナリ。上卿左衛門督ハ權中納言藤原時光、康安二年ハ即チ貞治元年ナリ。

〔本文〕 上卿左衛門督「康安二年三月三日 宣旨」僧正光濟「宣令爲如舊醍醐寺座主」

藏人頭宮内卿平行時奉

凡ソ藏人勅命ヲ受ケテ上卿ニ傳宣シテ下サシムル者ヲ口宣ト云ヒ、上卿口宣ヲ藏人ヨリ受取リ是ヲ我家ニ納メ、別ニ寫シテ外記ニ達スルモノヲ口宣案ト云フナリ。

三三八 康安二年四月足利義詮御教書

本書ハ武藏國栗木寺ノ事ニ就テ、將軍足利義詮ヨリ關東管領左兵衛督足利基氏ニ宛タルモノナリ。栗木寺ハ一名吉祥寺ト云ヘド今詳ナラズ。

〔本文〕 法印權大僧都經源申「武藏國栗木方事宜」有計御沙汰候謹言」

康安二年四月十七日

左兵衛督殿

義

詮(花押)

三三三 貞治二年九月繪旨

一通

御教書トハ三位以下ノ公卿、竝ニ武家ノ棟梁タル者ヨリ出ス公文書ノ一ナリ。

本書ハ山城國宇治郡醍醐ナル、眞言宗醍醐寺ノ院室三寶院ニ、尾張國得全保ヲ宛行ヒタル繪旨ニシテ、署名ノ右中辨ハ藤原嗣房ナリ。

〔本文〕 尾張國得全保「爲料所可令知行」給之由「天氣所候也仍上啓」如件」

貞治二年九月廿四日

右 中 辨(花押)

謹上寶三院僧正御房

繪旨トハ藏人ガ勅旨ヲ承ケテ出ス文書ヲ云フ。

三三二 永和三年繪旨

一通

本書ハ後七日御修法ノ繪旨ナリ。此御修法ハ毎年正月八日ヨリ一週間宮中ノ眞言院ニ於テ行ハル、故ニ又眞言院ノ御修法トモ云ヘリ。署名ノ經重ハ左少辨ニテ、宛名ノ報恩院ハ山城國宇治郡下醍醐ニ在リ、



眞言宗醍醐寺ノ院室ニシテ、其法印御房トアルハ阿闍梨權僧正隆源ナリ。

〔本文〕 明年後七日法「可令勤修給候依」天氣執達如件

十二月七日

右 少 辨(花押)

謹上報恩院法印御房

三三六 明和元年太政官牒

一通

本牒ハ東寺長者ノ補任ニシテ、太政官ヨリ東寺ニ其旨ヲ牒スルナリ。

〔本文〕 太政官牒 東寺

前大僧正法印大和尚位道雅

右正二位行權大納言藤原朝臣長照「宣奉 勅件人宜爲彼寺長者者」寺宜承知依宣行之牒到准狀故牒

明和元年十月二日

從四位下行主殿頭兼左大夫小槻宿禰(花押)

正五位上行左少辨藤原朝臣

三七七 傳馬人足賃制札

一面 豊住茂承氏出品

天和二年近江國坂田郡柏原醒ヶ井、美濃國不破郡今須間ノ傳馬駄賃人足賃ノ掟書ナリ。

〔本文〕

定

御朱印傳馬人足の員數御書付の外多く不可出事。

御傳馬並駄賃の荷物は一駄四十貫目人足之荷物は壹人に就而五貫目に限るべき事。

柏原より 今須迄駄賃錢一駄に付而貳拾七文乘懸荷は人ともに同前荷物なくしてのらば拾八文

人足賃は壹人にて拾四文 醒井へ三拾九文荷なしに合乗は貳拾五文人足賃は貳拾文但夜通しい

そぎ相通る輩は荷なしに乗るさいふ共夜の方は壹駄荷の積に駄賃錢可取事。

附五貫目迄の乘懸荷物は荷なしに乗駄賃錢同前たるべしそれより重き荷物は本駄賃錢可取事。

人馬の賃御定之外増錢を取者在之は可籠舍並其町之間屋年寄爲過料鳥目五貫文宛人馬役之者は家

一軒より百文宛可出事。

御傳馬駄賃之荷物は其町之馬不殘可出之若駄賃馬おほく入時は在々所々へやまひ荷物遅々無之様



に風雨之節も可出之往還之輩無子細而理不盡之儀於申懸は可爲越度又往還之者に對し非分なる儀有之者可爲曲事事。

道中次人足次馬之員數縱國持大名たりといふも家中共に東海道は一日に五十人五十匹に過べからず此外之傳馬道は貳拾五人貳拾五匹に限るべし但江戸、京、大阪は各別たるべし。勿論道中にて人馬共に追通すべからざる事。

附泊々にて木賃主人壹人は拾貳文召使之者壹人には六文可取之馬壹匹も可爲拾貳文事。

乗物壹丁に次人足六人山乗物は四人にて御定之人足賃取之可相送之長櫃壹樟三拾貫目を限るべしそれよりおもき荷物は持ちこぶべからず人足壹人に五貫目の荷積にて三拾貫目は人足六人それよりかるき荷物は貫目にしたがひ人數減少すべし此外は何れの荷物も可准之事。

右條々可相守此旨若於相違者速可被處嚴科者也仍下知如件

天和二年五月五日

奉 行

三三 切支丹宗禁制札

一面 豊住 茂 承氏 出品

裏面ニ江州柏原トアリ、同地ニ揭示セシモノナラン。

〔本文〕 定

きりしたん宗門は累年御制禁たり自然不審成もの有之は申出べし御はうびとして

ばてれん訴人銀五百枚

いるまん訴人銀三百枚

立かへり者の訴人同斷

同宿竝宗門訴人銀百枚

右之通可被下之たさひ同宿宗門の内たりといふも訴人に出る品により銀五百枚可被下之かくし

置他所よりあらはるゝにおゐては其所之名主竝五人組迄一類共に可被處嚴科者也依下知如件

天和二年五月

奉 行

○光明寺文書

光 明 寺 出 品



光明寺ハ宇治山田市岩淵町前田ニ在リ、天平十四年聖武天皇ノ勅ニヨリテ草創セラレシ天台眞言兼宗ノ勅願所タリシガ、後醍醐天皇ノ元應年間、時ノ住僧惠觀之ヲ禪宗ニ改ム。モト前山(度會郡宮本村)ニ在リシガ、何時ノ頃ニカ山田吹上ニ移シ、寛文年間祝融ノ災ニ罹リ現地ニ再築セリ。惠觀ハ月波禪師ト稱ス。南朝ノ忠臣結城宗廣ノ親族タリ。延元元年南朝ノ奥州下向軍進發當時、此寺ヲ以テ策源地トナセシモノ、如ク、宗廣ノ如キハ遂ニ寺内ニ客死セリ。故チ以テ宗廣自筆ノ軍中日記及令室ノ書簡等ヲ什襲セリ。軍中日記ハ徳川光圀大日本史ヲ編纂セシ時光明寺殘篇トシテ採收セリ。

二六三 結城宗廣軍中日記(國寶) 一卷

二六四 結城入道及令室書簡(國寶) 一卷

二六五 北畠親房下知狀 一卷

北畠親房ヨリ光明寺へ、大勝金剛法修法ヲ命セシモノナリ。文書ノ日付延元元年十二月二十一日ハ、主上花山院ヲ脱シテ、吉野ニ潛行アラセラレシ當日ナリ。

二六一 豊臣秀吉朱印 一卷

光明寺ノ古鐘ハ後深草天皇ノ御代、常樂井入道(氏ノ寄附セシモノト云ヘリ。古來神境ニ於テハ梵鐘ヲ撞クコトヲ禁止セシガ、豊臣氏ノ時寺僧郡宰上部越中守ニ愁訴シ、遂ニ特許ヲ得テ毎日二回之ヲ撞クコト、ナレリ。本文書即チ之ナリ。

二六二 永仁六年宣旨 一卷

二六三 足利義滿御教書 一卷

二六四 月波上人勸進狀 一卷

○内宮年寄家文書

十文字重輝氏出品

神郡ノ地明治維新前ニ在リテハ、山田ニ山田三方、宇治ニ宇治年寄アリテ各其地方政治ヲ行ヒ、コレガ監督トシテ山田奉行ヲ置カレキ。本文書ハ宇治年寄家中ニ傳ヘタルモノナリ。

二六九 天正三年北畠信意判物 宇治六郷徳政免許ノ下知狀一通

二七〇 文祿三年太閤秀吉朱印 宮川内檢地免除ノ朱印狀一通



五二 徳川將軍家朱印

十二通

内宮領内守護不入ノ事、喧嘩口論停止ノ事、參宮道者御師關係ノコトヲ令セルモノ。

五三 寛文八年檀那争ニ關スル評定所下知狀

一通

五三 祓銘兼行ニ關スル評定所下知狀

一通

五四 寛永八年師職定書

一通

五五 溝口村山田原村訴論裁許書

一通

五六 宮山境紛議裁定書

一通

五六 宿道者定書

承應三年旅籠道者ノ訴訟ニヨリ  
宇治上兩郷年寄定書

一通

五九 寛永四年高野定書

高野山檀那ニ付宇治上  
兩郷年寄規約

一通

六一 内宮町方仕來之帳

一册

五二 内宮領町方仕來之帳

一册

五七 神領鶴松新田ニ關スル奉行沙汰書

一通

五八 神領買戻ニ關スル奉行沙汰書

一通

五三 安永二年兩會合申合

一通

五四 兩會合取扱方ニ關スル奉行申渡聞取書

一通

五五 寛政十年奉行仰渡會合心得

一通

五六 會合ニテ手鎖申付ニ關スル奉行達書

一通

五六 兩宮争論ノ節外宮年寄へ下付朱印寫

一通

五九 内宮向山關所地ニ關スル奉行所達書

一通

六〇 神領田島賣買ニ關スル奉行書狀

一通



- 六一 傳馬ニ關スル奉行桑山丹後守書狀 一通
- 六二 會合仕來書 奉行書加筆 一通
- 六三 町民違背者處分ニ關スル評定所沙汰書 一通
- 六四 小俣村傳馬ノ件ニ付久野和泉守口上書寫及奉行奥書書狀 一通
- 六五 年寄家中申合書 一通
- 六六 小俣村馬次問屋ノ件ニ付沙汰書 一通
- 六七 關所地處理ニ關スル奉行所沙汰書 一通
- 六八 神宮警衛ニ關スル勅諭御沙汰書寫 一通

○角屋家文書

角屋七郎次郎氏出品

天正年間伊勢大湊ニ角谷七郎次郎トイフ者アリ。小田原北條家ト濱松松平家トノ爲ニ海上通路ヲ開キ展

々其ノ用ヲ達セリ。本能寺ノ變德川家康一揆ニ襲ハレ逃レテ伊勢白子若松浦ニ到ルヤ、七郎次郎之ヲ船底ニ隠シテ危急ヲ救ヒシ功ヲ以テ子孫代々朱印船ヲ以テ諸國ニ航行セリ。七郎次郎ノ孫七郎兵衛安南航海ヲ企テ、元和元年八月八幡丸ヲ舩シテ彼ノ地ニ渡リ、土人ヲ娶リテ日本街ニ寺院ヲ設立シ松本寺ト名ヅク、蓋シ松本ハ其ノ本姓ナリ。爾來支那沿海ヨリ安南交趾ニ通商貿易セリ。

一九 北條氏政朱印

一卷

虎ノ御朱印ト稱スルモノナリ。

○德川家朱印

十二通

一五 海圖 獸革製

一枚

此種ノ革製航海圖ハボルトガル人來航以來我國ニ傳ハリシモノニシテ、本品ハ七郎次郎ノ孫七郎兵衛安南航海ニ使用セシモノナリ。

二〇 廻船極定書

一卷



承應二年廻船極四十三箇條ヲ兵庫辻村新兵衛尉等幕府ニ應答シタル船法ノ贈寫ナリ。

101 船戰秘書 一卷

德川時代ニ於ケル戰船ニ關スル秘書ナリ。

102 公邊古文書 一卷

德川時代御朱印船ニ關スル文書ナリ。

103 安南國往復書翰 一卷

104 角屋近親諸方來狀 一卷

世ニじやがたらふみト稱ヌルモノ本卷ニ收メラレタリ。

105 船旗 三旒

106 八幡丸圖 一卷

107 角屋七郎兵衛傳記 一冊

108 古文尙書 十三卷

豐宮崎文庫舊藏

本書ノ傳來ハ本書典書ノ文ニ詳ナリ、左ニ之ヲ示ス。

仁平元年六月二十五日申尅、以少納言人道摺本之釋文見合了、總州之御時、以古本竝唐本釋文所被付音義也、然而依有不審事、重所校合、古本勘物雖有委細事付、今委之摺本合點畢、不裁(載)摺本勘物付輪、應保二年四月二十六日見合或古本了、仲書江家之繼本也、披合之處其可取之事有數、仍一部所校合也、建保六年七月九日授仲光了、在御判

建長第八曆晚春十一日書點了

至此書者以摺本書寫之、以古本校點之、凡虞夏商周書者壁中舊本、隸古之遺字也、雖然改古字爲今字處本文加此、其上

高倉上皇御讀之本又如此歟、當家尤可用之哉、但古字之體一向不可失之、仍本用今字傍附古字者也一部十三卷五十八ヶ篇、爲一字半字不借他人之手、偏至墨點朱點、皆用自身之功、子々孫々輾覆内兮、不出闕外也、清原



正和第三曆孟夏初五日以家之祕說授申生德才子、以十一代之學業終十三卷之詰訓、當時希有書也、

明經得業生 清原長隆

古文尙書合部十三卷、花園帝正和年中、明經得業生清原長隆以家之祕說所加訓點也、手書曰以十一代之學業終十三卷之詰訓當時希有者也、且末書所謂少納言入道者藤原信西也、所謂總州者助教直講定康乎、清原世々傳授祕本明々昭々、余偶得之珍藏有年、然今以爲希代之物奉納勢州大神宮文庫、而貽萬世洪寶表方寸微忱也、唯冀神之靈永垂鏡照、謹跋一語以爲後證、

貞亨元年甲子夏四月上旬

鳥原城主從四位下主殿頭源忠房

三六八 天球儀

一基

保井算哲(澁川春海)之ヲ著作シ、元祿四年內宮文殿ニ奉納シタルモノナリ。

三六七 地球儀

一基

同上

二七二 寶永八年伊勢曆

一折

維新前行ハレタル曆書ヲ大別シテ具注曆、七曜曆、假名曆ノ三種トス。具注曆ハ日ノ吉凶ヲ註記シタル雜曆、七曜曆ハ七曜(日月木火土金水)ノ位置ヲ記載シタルモノ、假名曆ハ俗間ノ使用ニ應ズルタメ具注曆ヲ假名ニテ記シタルモノナリ。コノ外南部地方固有ノ曆ニシテ文字ヲ解セザルモノ、タメ、繪ヲ以テ記シタル盲曆ト稱スルモノモアリ。  
伊勢曆トハ伊勢ニ造レル假名曆ノ稱ニシテ伊勢ノ祠官大藤ト共ニ諸國ニ頒布シテ最モ廣ク世ニ行ハレタルモノナリ。

二九一 箕曲作大夫曆道免許狀

一通

二九二 曆仲間誓約書

一通

三六 長祿三年具注曆殘缺

一枚

三七 假名具注曆殘缺

一枚

五 文政十年南部盲曆

一折



三六 伊勢新名所歌合繪 上卷 欽

一卷

此歌合ハ後宇多天皇弘安九年ノ頃、祭主定忠荒木田度會兩姓ノ神主及ビ釋氏等相會シ、山田附近ニ於テ新ニ名所十ヶ所ヲ選定シテ詠吟セシモノナリ。和歌ノ筆者ハ冷泉爲相、畫ハ藤原隆相ナリトイフ。

三四 齋内親王參宮圖

一卷

齊内親王ハ齊王トモ申シ、又御座所ニ由リテ齊宮トモ申ス、大御神ノ御杖代トシテ親シク神宮ニ仕ヘ奉ラシメ給フ。崇神天皇ノ六年皇女豐鋤入姬命ヲシテ大御神ヲ倭ノ笠縫邑ニ祭ラシメ給ヒシ以來、女王ヲ以テ之ヲ任ジ給ヒシガ、後醍醐天皇ノ皇女祥子内親王以後ハ全ク廢絶ス。

内親王ノ神宮御參宮ハ、神嘗祭及ヒ兩度ノ月次祭ノ三回ニシテ、御參向ノ前月盡日、竹川又ハ尾野湊ノ御禮アリ。期月十五日齊宮寮御發與離宮院御駐輿。十六日豐受大神宮ニ御參向。祭典終リテ後離宮院ニ還啓ス。十七日皇大神宮ニ御參向。祭典終リテ後離宮院ニ還啓、十八日齊宮寮ニ還啓シ給フ例ナリキ。本圖ハ曾テ、有栖川宮熾仁親王ノ令旨ヲ奉シ、御巫清直自ラ稿ヲ起シテ描寫セシメタルモノニシテ、皇大神宮ニ御參向、宮域ニ御著ノ所ナリ。

三四 御蔭群參圖 模寫 原本田中易慎筆

一卷

寶永三年、明和八年、文政十三年、安政二年、慶應三年等ニ諸國大神宮ノ神異アリトテ、拔參ノ道者群集セリ。所謂御蔭參ナリ。本圖ハ文政十三年御蔭群參ノ狀況ヲ描寫セシモノナリ。

三六 神宮私賽舊樣繪卷

一卷

明治維新前神宮ニ在リテハ、私人ノ祈禱ハ御師ノ行フトコロタリシコト上述(二〇五)ノ如シ。本卷ハコレニ關スル下ノ各圖ヲ收ム。一伊勢街道宮川中川原ノ光景一、同上二、皇大神宮御供獻備圖、豐受大神宮御供獻備圖、皇大神宮大々神樂圖、豐受大神宮大々神樂圖、代官發途式ノ圖。

三九 春日若宮祭禮圖

一卷

明治元年春日若宮ノ祭禮永續ヲ神祇官ニ願出テシ時、參考トシテ此卷ヲ添ヘタリト云フ。奥書ニ曰。春日若宮祭禮ノ事ハ崇徳院御宇保延元年二月二十七日中臣祐房若宮ヲ別殿ニ奉遷。同シク二年秋九月十七日祭禮ハジメテ執行ス云々。筆者詳ナラズ。

三八 春日大宮祭禮圖

一卷

春日大宮祭ハ清和天皇貞觀元年十一月行ハル、所ナリ。コノ圖モ筆者詳ナラズ。



四三 豊宮崎文庫額 トヨミヤサキブンコガク 文 宮崎文庫。裏書 慶安四年十二月十一日 一面 山中勇氏出品

豊宮崎文庫ハ豊受大神宮宮域ノ東豊宮崎町ニ在リ。慶安元年外宮ノ祠官出口延佳、與村廣正等相謀リ衆庶ニ資財ヲ募リテ創建セシモノナリ。萬治三年幕府ヨリ修繕費トシテ米二十斛ノ采地ノ寄附アリ。尋テ貴紳等ヨリ珍籍ヲ寄贈スルモノ多ク、爲ニ藏書數萬卷ニ及ベリ。明治十一年祝融ノ災ニ罹リ講堂等鳥有ニ歸セシガ、圖書ハ幸ニ其ノ災ヲ免レテ得タリ。後神苑會ノ手ニ歸シ、明治四十四年十一月同會ヨリ神宮司廳ニ寄贈セシナリテ、今神宮文庫ニ保存シ、書庫其他舊跡ハ私人ノ有ニ歸セリ。

四三 豊宮崎文庫表門額 文 豊宮崎文庫。善齋道慶書 一面

四三 經 筒 土製 (國寶) 一口 世義寺威徳院出品

〔銘文〕

敬白

奉施人如法經筒一口

右志者爲教豪尊靈出離」生死頓證菩提施入如右敬白」

治承二年七月十二日造之

願主 僧 寬喜  
造手 藤井成重

敬白

四三 神武天皇御陵修理誌ノ歌 搦本 一幅 瀬尾吉重氏出品

第九室

輿車 船舶

九六 日本丸船首龍 木彫 一個

本品ハ日本丸船首ノ龍トシテ、舊鳥羽城ニ傳ハリシモノナリ。蓋シ日本丸ハ天正十九年鳥羽ノ城主九鬼嘉隆、太閤秀吉ノ命ヲ受ケテ造リ、文祿征韓ノ役ニ從ヒシ軍船ニシテ、後ノ城主内藤伊賀守之ヲ改造シ



テ、大龍丸ト改稱セリ。龍ハ當時ノ増設ニ係ルモノナラム。

八三 雛形丸模型 木製

一基

舊島羽藩ニ傳來シタルモノニシテ、文祿征韓役ニ從ヒタル同形船ニツキ、嘉永七年藩命ニヨリテ時ノ水手頭中村傳六、河村傳七ノ兩人四年ノ星霜ヲ費シテ模造シタルモノナリ。

三〇七 山田長政軍艦圖 模寫

一枚

山田長政暹羅國ヨリ駿河國淺間神社(靜岡)ニ奉納シタル原本ハ天明八年ニ燒失セリ。本圖ハ同神社ニ傳ヘシ模本ニツキテ寫シタルモノナリ。

一七九 四方輿<sup>シ</sup> 俗ニ塵取輿ト稱ス

一挺

延寶年間皇大神宮禰宜藤波氏富長官ノ使用セシモノニシテ、明治二十二年度御遷宮山口祭ノ際造神宮使ノ御資格ニテ、神宮祭主久邇宮朝彥親王殿下ノ乗用セラレタルモノナリ。

上古遺物

二〇三 八獸鏡 白銅製、破損

一面

二〇四 乳紋鏡 白銅製

一面

二〇五 六鈴鏡 白銅製、破損  
筑前國糸島郡周船寺村大字飯氏發掘

一面

二〇六 三獸鏡 白銅製、破損

一面

一六八 內行花紋鏡 白銅製、破損、銘長宣子孫  
豐後國仲津郡(村名不詳)發掘

一面

二六九 雙獸鏡 白銅製  
伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘

一面

二七一 四獸鏡 白銅製  
伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘

一面

二二四 勾玉砥石 出雲國八束郡玉造村ト湯町トノ境花仙山ヨリ發掘

二個

二二七 勾玉 碧玉岩製  
伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘

一個

勾玉ハ上古ノ玉類中最モ著シキモノニシテ、其ノ起原ハ未開ノ代ニ獸類ノ牙等ニ組貫キテ裝飾トシタ



ルニアリ。

三三五 異形勾玉 青色玻璃製

一個

三三九 管 玉 碧玉岩製

五個

古史ニ竹玉トイヘルモノ、一種ナルベシ。質ハ十中八九マテ碧玉岩ナリ。

三三二 切子玉 水晶製

十五個

三三四 丸 玉 縞珠瑯製

二個

三三四 白 玉 滑石製 伊勢國度會郡神路山發見

百四十二個

三三五 棗 玉 銅質鍍金

一個

三三五 小 玉 淺青色及淺綠色玻璃製

百五十六個

三三六 金 環

十個

銅ニテ造レル環ノ表面ナ金ニテ包メルチ金環ト云ヒ、銀ニテ包メルチ銀環ト云フ。稀ニハ中空ノ金銀環

モアリ。是等ノ環ノ所用未悉ク明ナラザレドモ、中ニハ耳環ニ用キタルモアルベク、太刀ノ足金物ニ著ケタルモアルベシ。

三三六 金 環 連環

一個

三三九 銀 環

四個

三三九 銅 環

一個

三三六 銅 釧

一個

釧トハ手首ヲ飾ルモノニシテ、玉釧(玉ヲ緒ニテ貫ケルモノ)銅釧等アリ。銅釧ノ周邊ニ若干ノ鈴ヲ鑄著ケタルチ鈴釧ト名ヅク。鈴釧ノ名古史ニ所見ナシト雖モ、手鈴トイヘルモノ蓋是レナルベシ。

三三五 貝 輪

二個

コレモ一種ノ釧ナルベシ。

三三〇 三輪玉

二個



三輪玉ノ名ハ一般ニ用ヒタレドモ、固ヨリ尋常ノ玉類ニ屬スベカラス。

二三三 石 釧 碧玉岩製 山城國綴喜郡草内村字飯岡發掘 一個

二三四 車輪石 碧玉岩製 山城國綴喜郡草内村字飯岡發掘 一個

三九六 鍬形石 俗稱狐鍬石、碧玉岩製 車輪石トハ鍬形石トハ其ノ用法詳ナラザレドモ、貝殻ニテ造リシ裝飾具ノ變遷セシモノナルベシ。 一個

一六〇 刀 身 一振

上古ノ刀身ハ眞直ニシテ殆ド反リナク、平作ニシテ鑄ナキチ常トス。莖ニハ二所以上ノ目釘孔アリ。鐵製ノ目釘ノツキタルモノ往々存ス。

一五一 大刀殘缺 金銅金具 筑前國怡土郡(村名不詳)發掘 一振

一五六 鐔 鐵製 上古ノ鐔ハ後世ノ如ク圓形又ハ木瓜形ノモノナク必倒卵形ナリ。 一個

一五三 鐔 金銅製、喰出 一個

一五五 太刀足 金銅製 一振

ハ帶取チ著ケル金物ナリ。

一五六 太刀責 金銅製 一個

一五二 鐵銚身 上野國碓氷郡原市町大字原市發掘 一本

一四八 太刀柄頭附屬鴉目 金銅製 一個

二三〇 銅 鍬 上野國碓氷郡原市町大字原市發掘 一個

二三三 鐵 斧 備前國邑久郡美和村大字西須惠發掘 一個

二三七 鐵 鍬 伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘 四個

一六八 石製鍬 碧玉岩製 近江國野州郡天王山發掘 三個

一六三 轡鏡板殘片 鐵地金銅張 一個



鏡板トハ馬ノ口ニ當ル轡ノ兩側ニアル板ナリ。上古ニアリテハ其形種々アリシガ、近世ハ多ク丸二十字形ヲ用キタリ。

1506 馬具杏葉 鳳凰透模樣 一個

杏葉ハ胸繫、尻繫等ニ垂下セル裝飾ニシテ、轡ノ鏡板ノ如ク其形種々アリ。杏葉ノ名ハ中古後ノ飾馬ニ用キルトコロノ形ニヨリテ稱セルナリ。

1507 馬具杏葉 金銅唐草模樣透影 一個

1508 馬具雲珠 金銅製 一個

雲珠ハ尻繫ノ上ノ裝飾ナリ。而シテ形ノ小ナルハ革具ノ辻金物ト知ルベシ。

1509 鞍殘片 一個

鞍ハ鞍ノ前輪後輪ニツキテ胸繫、尻繫ヲ留ムル具ナリ。

1510 馬鐸 青銅製、破損 一個

馬鐸ハ胸繫ニ垂下シタル裝具ナリ。

1511 金銅器殘缺 唐草模樣アリ、七鈴付 遠江國豐田郡赤佐村字根堅發掘 一個

本品ハ他ニ類例ナク、ソノ用途詳ナラズト雖、一ノ裝飾具ナルベシ。

1512 提瓶 一個

提瓶ハ酒水等ノ飲料ヲ携帯スルニ用キタルモノナレバ形扁平ナリ。兩肩ニ鏝狀ノ耳アリテ紐ヲ著クルニ便セルハ、其最完備セルモノニシテ、鉤狀ノ耳アルハ稍省略セルモノナルベク、單ニ瘤狀ノ耳アルハ原意ノ名殘ヲ留メタルナリ。而シテ本品ノ如キニ至リテハ其痕跡サヘナキモノナリ。

1513 提瓶 雙瘤耳付 一個

1514 提瓶 雙鉤耳付 一個

1515 提瓶 雙環耳付 一個

1516 提瓶 雙環耳付 一個



- 二一五 脚付盃 盃ハ塊トモ書ス。即チ椀ニ同シ、其形球狀ニ近ク坏ヨリ深シ。 一個
- 二一四 絲底付盃 イトソコツキマリ 一個
- 二一六 坏 ツキ 一個
- 二一四 高坏 タカハ 蓋付 一個
- 二一〇 子持高坏 コモチタカツキ 筑前國絲島郡怡土村字東發掘 一個
- 二一五 埴 ツボ 遠江國豐田郡赤佐村字於呂發掘 一個
- 二二二 三脚付埴 ミツアシツキツボ 埴ハ壺ニ同シ。盃ノ口窄マリタルナ云フ。 一個
- 二一五 長頸埴 ナガクヒツボ 一個
- 二一六 瞭 ハサフ 一個

惣ハ口擴ガリテ漏斗狀ナナシ身ノ側面ニ孔アリ。コノ孔ハ竹管ヲ插入シタルトコロナリ。

- 二一四 瞭 ハサフ 横盆形 一個
- 二一〇 小埴付瞭 コソボツキハサフ 一四〇九裝飾付臺ノ上ニ裝置ス。 一個
- 二〇九 裝飾付臺 ミカ 明治十六年筑前國早良郡金武村大字羽根戸發掘 一個
- 二一六 甕 ミカ 雙環耳付 筑前國絲島郡櫻井村發掘 一個
- 二一三 瓶 カン 筑前國早良郡古墳ヨリ發掘 一個
- 二一〇 平瓶 ヘイ 瓶ハ其ノ頸埴ヨリ窄マリタルタイプ。 雙環耳付 一個
- 二一七 横瓮 ヨコ 平瓶ハ正シク訓メバひたるがめニシテ平居瓶ノ意ナリ。 一個
- 二一四 脚付埴 素焼 尾張國海東郡諸古村大字諸桑字錢龜發掘 一個



- 一四六 坏 素焼 一個
- 一四八 高 坏 素焼 一個
- 一四九 脚付盆 素焼 一個
- 一五〇 坩 素焼 一個
- 一五七 盆 素焼 一個

石器時代遺物

日本太古ノ住民ノ一タル石器時代人民ノ作りタル利器其他ノ石器ナリ。石器時代トハ太古石器ヲ使用セシ時代ニシテ其人種ノ日本人ト異ナリタルモノナルコトハ明カナルモ、誰ニ何人種ナリトノコトハ未ダ云フチ得ズ。最モ似タルハ現存極北地方住民例セバ、互々も一ノ如キ者ナリ。(故理學博士坪井五郎氏解説抄録 以下同シ)

- 一五八 錘<sup>スイ</sup> 石<sup>セキ</sup> 下總國香取郡貝塚村發見 一個

網ノ錘ナドニ用キシモノナラン。

- 一五九 石 庖刀 筑前國嘉穂郡發見 一個
- 一六〇 石 棒 筑前國生葉郡發見 一個

大小精粗類品多ク其用モ一様ナラズ、コハ小ニシテ精ナルモノナリ。恐ラクハ護身器トシテ用ヒラレシモノナラン。

- 一六一 石 鍬 陸奥國津輕郡高杉村發見 三個
- 一六二 石 錐 陸奥國膽澤郡金崎村字二台發見 四個

獸皮ヲ綴リテ衣服其他ノモノヲ作ル場合又ハ土器ノ破レタルヲ修復スル場合ニ錐ノ用ニ供シタリト見ユ。小玉ニ孔ヲ穿ツニモ用キシ證アリ。

- 一六三 石 槍 五個

(一) 羽後國雄勝郡西成瀬村大字吉野發見。  
(二) 陸奥國岩手郡瀧澤村大字鷗飼發見。



(三)羽後國北秋郡綴子村大字大畑發見。  
 (四)陸前國遠田郡北浦村字彫靈發見。  
 (五)陸前國遠田郡寬嶽村字小里小字四軒屋敷發見。  
 石槍ハ武器トシテモ用キラレ、獵具トシテモ用キラレシナラン。おゝすゝらりや土人ハ現ニ此ノ如キ物ヲ使用ス。

一八三 扇形石匙

六個

石匙ハ形ニヨリテカク稱スレドモ、鳥獸ノ皮ヲ剝ケ時ナドニ用キルモノナリ。

一八二 木葉形石匙

九個

一八一 打製石斧 武藏國荏原郡上沼部村發見

四個

打缺キテ刃ヲ作りタルヲ打製石斧ト云フ。

一九〇 磨製石斧

一個

研キ磨キテ刃ヲ作りタルヲ磨製石斧ト云フ。

一八四 獨鈷石

二個

獨鈷石ハ形ニヨリテ名ケタルモノニシテ一種ノ武器ナラン。

一八三 食物調製用具

一個

此類ノ石器ハ形ニヨリテ石冠ト呼バルレド實ハ植物ノ實ヲツブシテ粉ヲ作り、或ハ葉根ナドヲ搗キテ食物トスルニ用キル器具ナリ。

一八七 小玉

七個

陸中國西津郡森田村石神石器時代遺跡發見

一八六 土器

一個

常陸國稻敷郡福田發見

一八一 土器

一個

陸奧國三戸郡和久井村發見

一八八 土器把手種類

六個

二〇〇 土器

一個

底面ニ網代形ノ跡アリ。製造ノ際用キタル敷物ノ痕ナリ。



五三 土 器 陸中國西閉伊郡宮守村字塚發見

三三 土 器 下總國香取郡阿玉臺發見

二〇七 土器破片 (裝飾ノ種類) 一個

(一) 土器ノ面ニ高低ヲ作りテ裝飾トシタルモノ。

(二) 原料ノ土中ニ雲母ヲ混シテ裝飾トシタルモノ。

(三) 同上

二〇四 土器破片 (裝飾ノ種類) 三個

(一) 沈模様及浮模様

(二) 押付模様及畫キ模様

(三) 網紐ヲ竝ベタル如キ模様

(四) 波線ヲ畫キタル模様

(五) 縁ノ部分ニ高マリヲ設ケテ裝飾トセシモノ

六個

二〇五 土器破片 (裝飾ノ種類) 七個

(六) 平行線ヲ畫キタルモノ

(一) 櫛ノ如キモノニテ線ヲ畫キタルモノ

(二) 管ニテ突キタル跡アルモノ

(三) 粗キ櫛ノ如キモノニテ線ヲ畫キタルモノ

(四) 紐ヲ押付ケタル如キ跡アルモノ

(五) 竹管ヲ割リテ撫テタル如キ跡アルモノ

(六) 土ニテ紐様ノモノヲ作りテ指先ニテ押付ケタル如キモノ

(七) 筵ノ如キモノヲ押付ケタルモノ

七個

二〇九 土器破片 (底部ノ種類) 五個

(一) 臺ノ高キモノ

五個



- (二) 臺ノ低キモノ
- (三) 木葉ノ跡アルモノ
- (四) 篋ニテ磨リ均シタルモノ
- (五) 網代形ノ跡アルモノ

一八七 土器ノ底部ヲ飾リタルモノ 常陸國稻敷郡 椎塚發見 一個

一八八 土器破片 (廢物利用) 二個

- (一) 破損シタルヲ接ギ合ヌタメ穴ヲ穿チタルモノ
- (二) 破損シタルモノ、破レ口ヲ磨リ減ラシ、倒ニシテ塊ニシタルモノ

一八六 貝塚發見ノ貝 八個

石器時代人民ノ食用ニ供シタル貝ノ種類ヲ示ス。

一九五 貝輪破片 常陸國稻敷郡高田村椎塚發見 一個

腕輪其他身體裝飾品トシテ用ヒタルモノナラン。

一八九 角 器 二個

- (一) 鹿角製槍 (或ハ銛) 陸前國氣仙郡小友村瀬澤發見
- (二) 鹿角製裝飾品 常陸國稻敷郡陸平發見

一八〇 骨 器 (一) 出所不詳 (二) 常陸國稻敷郡陸平發見 (三) 常陸國稻敷郡福田發見 (五) 常陸國稻敷郡高田村椎塚發見 五個

一九九 土 偶 陸奥國二戸郡爾薩體村字佐久間發見 一個

二〇〇 土 偶 頭 陸前國遠田郡沼部村字小墮發見 一個

二〇一 土 偶 胴 出所同上 一個

二〇二 土 偶 頭部 陸前國遠田郡籠嶽村字小里小字四軒屋敷發見 一個

是等ノ土偶ハ皆石器時代ノ遺跡ヨリ發見セラレタルモノニシテ製作ノ精巧ナルアリ、粗末ナルアリ、甚シク省略シタルモノニハ頭モ手足モ判然セズ、唯土製ノ盤ノ如クニ見ユルモノアリ。斯ク形ニハ重キヲ



置カズシテ其意ノミチ寓シタルモノアルヨリ推測スレバ土偶類ハ小兒ノ玩具ニアラズシテ宗教上偶像又ハ守リノ類トシテ作ラレタルモノナラント考ヘラル。但シ形ノ基ク所ハ當時ノ風俗ニ在ルベケレバ信仰ニ關スル事ノ他衣服身體裝飾ノ事ヲ考フル爲メニモ、此類ノ品ハ極メテ有益ナルモノナリ。



## 附 録

### 農 業 館 案 内

農業館は農産、林産、水産等農業の全般に亘り、天産物利用の現況並に生産の法式を曉得するに必要な標品、模  
型、掛圖、圖表等を以て學理と實際とを統合し通覽に便し、人智を裨補すると共に、農業立國の淵源に遡りて皇祖大  
神の神徳を景仰せしめんことを目的とす。

本館は勸農開物を以て國家に貢獻せし、故男爵田中芳男氏の創規に係り、其二十餘年に亘れる努力の結晶として今  
日有るを致せるものなり、本館は現今八千三百餘點の陳列品を藏し、其大部分を陳列公開せり、左に其の分類表を  
擧げ、且各類内容の概目を註す、但農産第二部は陳列設備更新の爲目下公開せず。

#### 農業館陳列品分類表

#### 一 農 産 第 一 部



- 〔一〕神祭類 農桑山林ニ關スル神祭、大嘗祭關係資料
- 〔二〕穀菽類 穀類、菽類、穗莖
- 〔三〕製造食品 穀菽製品、澱粉、菓子
- 〔四〕貯藏食品 罐詰、壘詰、樽詰、製罐標本
- 〔五〕菜果類 蔬菜、蔬菜、野菜、菌苔、果實
- 〔六〕香辛類 香料、辛味料
- 〔七〕砂糖類 砂糖、糖蜜、製糖料
- 〔八〕釀造類 酒類、醬類、釀造料、器具
- 〔九〕茶類 製茶、磚茶、咖啡、知古刺多

### 二 林 產 部

- 〔一〇〕煙草類 葉煙草、煙草代用品、製造具
- 〔一一〕藥材類 植物性藥材、香料
- 〔一二〕染料類 動植物性染料、澱質料、染色標本
- 〔一三〕油蠟類 動植物性油蠟、脂膠漆、採漆具
- 〔一四〕製紙類 抄紙料、紙並紙製品、糊料、抄紙具
- 〔一五〕綿絮類 草綿並製綿具、綿製品、綿類似品
- 〔一六〕纖維類 紡績纖維並製品、製造具
- 〔一七〕各用類 植物ノ葉莖種根花實殼核ノ各種用途ヲ  
ルモノ

- 〔一八〕木材類 木材並製品、樹皮並製品、木炭並乾留  
製品、林業模型器具

### 三 蠶 絲 部

- 〔一九〕繭絲類 家蠶天蠶繭絲並製品、養蠶人形、養蠶  
具、製絲具、飼料

- 〔一九〕竹材類 竹材並製品、箨並製品、禾木稈、櫻幹

### 四 農 業 動 物 部

- 〔二〇〕禽獸類 畜養禽獸、保護鳥、有害鳥獸、飼養使  
役具

- 〔二〇〕禽獸產物 畜養動物產物、野生動物產物、製品

### 五 水 產 部

- 〔二一〕水產物類 水族標本、水產食品、工業用藻類、  
貝殼並製品、鹽類
- 〔二二〕水產漁撈具 捕採具、漁船並器具、養殖業標本並  
模型

- 〔二二〕水產製貯具 製造具、貯藏具、製造場模型



## 六 農產 第二部

附錄四

- 〔二六〕昆 蟲 類 昆蟲標本、害蟲驅除劑並器具、蜂蜜並養蜂具
- 〔二七〕有害植物 有害草木、有害菌苔
- 〔二八〕農業用具 耕耘、播種、收穫、貯藏、運搬具
- 〔二九〕農產製貯具 穀類果菜製造具、貯藏具
- 〔三〇〕園 藝 類 園藝植物標本、育成方法模型、園藝器具
- 〔三一〕種 子 類 種子標本、選種貯藏器具
- 〔三二〕肥 料 類 動植物人造肥料、肥料分析標本
- 〔三三〕牧 草 類 禾本牧草、豆科牧草、禽獸飼料
- 〔三四〕土性 地質 土壤分析標本、耕地整理模型
- 〔三五〕飲食物分析 原料分析標本、製品分析標本
- 〔三六〕有毒植物 有毒草木、有毒菌苔
- 〔三七〕參 考 品 學術標本、陳列ニ適セザル標品

大正八年十月五日訂正再版印刷  
大正八年十月十日訂正再版發行

神宮司廳所管

徵古館 農業館

印刷所 安濃津盛藏宇治山田分監



書葉繪古徵

- |     |              |                |                  |
|-----|--------------|----------------|------------------|
| 第一輯 | 一、上古男子人形     | 二、上古女子人形       | 三、奈良時代文官人形       |
|     | 四、藤原時代以來文官人形 | 五、藤原時代以來女官正裝人形 | 六、中古 藤 夫 人 形     |
| 第二輯 | 一、鎌倉時代貴族童人形  | 二、鎌倉時代將士武裝人形   | 三、足利時代末士武裝人形     |
|     | 四、中古貴族男子人形   | 五、中古貴族女子人形     | 六、德川時代上流武家女子盛裝人形 |
| 第三輯 | 一、小埴付懸及裝飾付臺  | 二、響鏡板及馬具杏葉     | 三、六 鈴 鏡 及 雙 獸 鏡  |
|     | 四、伊勢新名所歌合繪   | 五、藤原秀郷太刀       | 六、經 刀 六 經        |
| 第四輯 | 一、壺          | 二、墨            | 三、金 銅 器 殘 缺      |
|     | 四、四 方 輿      | 五、雛 形 丸 模 型    | 六、日 本 丸 船 首 龍 缺  |
| 第五輯 | 一、大神宮司印      | 二、皇大神宮政印       | 三、豐受大神宮政印        |
|     | 四、大神宮司印筒     | 五、御太刀殘缺        | 六、貝 桶            |



373  
961

8.12. 2



終